

昭和22年9月28日印刷 昭和22年9月25日發行（毎月1回發行）

建築（社會）日

日本建築協會

6·7·8

昭和22年6·7·8月號

第28輯 第6·7·8号

上下水道・衛生・暖冷房
各種工事設計施行
水槽便所・温泉・源泉

阪神復興工業所

所長 桂 國 次

支配人 貝 原 信 夫

工学博士 島崎孝彦先生大阪連絡所
大阪市西區京町堀上通一丁目京町堀ビル
電話土佐堀 自二四三一番
至二四三七番

建築・土木・電気
機械
設計・製作・工事施工

不二工業株式會社

大阪市北區會根崎新地二丁目二六

株式會社 盛工務店

代表取締役 盛 道 雄

營業所・大阪市北區地下町一五番地
電話 堀川 ④一四二九・二八九三
支 店・神戸市灘區磯口町五丁目九〇番地
電話 御影 八二九四番

THE FUTABAYA FURNITURE STORE LTD.

家具・造作・設計施工
居室・木内・裝飾

株式會社 二葉屋

取締役社長 若 林 繁 吉

大阪市北區會根崎中一丁目六四
阪急會根崎駅南側東へ四軒目

營業種目

建具・家具・木工品
檜・杉フローリング 製作販賣
建築用ギールト類
小 屋 金 物 一 式

株式會社 吾妻製作所

代表取締役 吾 妻 義 一

大阪市東區今橋二丁目二十番地
電話南④450・451番

屋 根 瓦

フレンチ瓦
日本型瓦 製造販賣並ニ屋根工事請負
S 型 瓦
三河産 土管・煉瓦・ラス・ベニヤ
岡山産日本瓦 テックス・フェルト・便器・タイル

東洋瓦産業株式會社

社 長 青 木 友 一

大阪市天王寺區大造三丁目一二番地
電話 申 請 中

土木・建築・設計・施工

株式會社 中 川 組

取締役社長 中 川 好 郎

本 社・大阪市東淀川區元今里北通四丁目五番地
營業所・大阪市南區大賢寺仲ノ丁七二番地
木工場・大阪府北河内郡庭瀬村八雲南十番
電話 守 口 五 三 二 番

ロータス防水工法責任施工

セメント防水剤 ロータス
セメント急乾剤 クキックロータス
セメント防凍剤 耐寒ロータス
石綿塗料 ファイバーコート
セメント木毛不燃板
マグネシヤ床工事 請 負
アスファルト防水施工 請 負

關 城 化 學 工 業 所

大阪營業所・大阪市北區茶屋町三八番地
電話 榮 崎 ④711・二一〇九番
電信略號 オウサカイウビン
ロータスホースイ
西宮分室・西宮市下渡原町六番地
電話 西宮 二六八二番

會 告

(會費改正の件)

本會に於ては去八月十四日評議員會で細則第七條の中下記の通り一部變更し之を八月より實施する事に議決いたしました。

1. 正會員及贊助會員、會費年額金四十八圓とあるを**百二十圓に改正**。

但支部に屬せざる地方會員年額金三十六圓とあるを**九十六圓に改正**。

1. 准會員年額金二十四圓とあるを**六十圓に改正**。

以て昭和二十二年八月より實施の事 戦後の諸物價は逐日上騰しつつあり本會の運営にも多大の打撃を受けておりますが最近に於ては雑誌の發行にも至難 状態に立至りましたので時局柄誠に不本意ながら茲に會費の値上げを餘議なく實行する事となりました。會員各位は何卒現下の社會狀勢に依り止むなき次第と御諒承の上會勢發展に一層御協力あらん事を願ひます。

尙改正後の會費は近く御請求申し上げますので振替大阪39975番にお拂込下さい。

社 團 法 人 日 本 建 築 協 會

建築便覽 (附 會 員 名 簿) 發行進捗

豫告の本便覽發行に就ては大體の原稿の整備を終へ目下業者案内欄の充實に全力を傾注してゐるあらゆる建築関係業者の名簿を一件でも多く掲載する事が本便覽の重要性と其價値を高めるのであるが戦後の各業者との連絡は甚だ困難の實情にあるので之が申込締切を九月末迄延長して業者並に會員各位の深き御理解と絶大な御援助とに依り所期の目的を達成したい念願である。

○支部所在地は支部毎に頁を纏めて掲載する計畫につき地方會員各位の御協力と業者各位よりの御申込みを懇望してゐる。

○如上の事情により本便覽の發行は**十二月上旬完成豫定**につき御諒承を願ふ次第である。

○尙本便覽は印刷費として一部 ¥ 80.00 を以て希望者に分頒する。(本會員は一部に限 ¥ 40.00 とす) 發行部數の都合あり希望者は至急申込まれたい。

業者案内欄申込者は一口一部無料配布する。

社 團 法 人 日 本 建 築 協 會
出 版 幹 事 會

日本建築協會の活動

會長 竹 腰 健 造

早くも終戦以來滿二ケ年を経過した。其間に於ける我國建築界の推移を回顧して見ると、初めは戦後の失神状態から建築界も混沌たる状態にあつたが、次第に其將來に於ける使命の重大なるを自覺するに至つた。勿論正常なる建築の復興は商工業の復興に伴はねばならぬが、是れは敗戦直後の我國には早急に望み得べきものではない。然し爆撃の爲めに都市を焼かれ住居を失つたと云ふ事實と、占領軍の進駐による諸般の建設物の必要とは一時的とは云へ、此混亂した國狀の許に於ける建築界に過去一年有半の股脈を齎した。今や漸く混亂の中から秩序を見出し、其間の業績を精算する時期に達して見ると、茲に解決困難な幾多の問題が起つて居るのを見出すのである。

今日、我國建築界にて大きな問題があると思ふ。住宅問題である。戦勝國に於ても戦敗國に於ても住宅問題は大きな社會問題である。然して、それは、當然國家の政策として採り上げられなければならない問題であるに拘らず、我國に於ては今

日に至るも其根本策に於て何等決定的な解決を見るに至らず只當面を糊塗する方途に出でて居るに過ぎない。

此の問題は現下建築界の最重要問題であるが其他にも戦後窮乏せる時代に我等建築人に課せられたる幾多の問題が山積して居り、此等の問題は建築に關係ある各方面の人士の協力に俟つて初めて解決の方途が見出されるのである。

我協會は過去半歳の間に組織を變更し從來の技術者を會員とする組織より進んで建築界各方面の事業に携る者の會とする事に改め、今や内部機構の整備も成り、會員協力して建築界に貢獻する機運に到達したのである。今後は新機構の許に清新の氣を以て活發なる會務の運営が期待されるであらう。

此組織の更改と時を同じうして新に元華北交通株式會社理事西川總一氏が會務の常時運営の任に當られる事となつたのは一層會務の進展に資する所が多いと期待されるのである。

就 任 挨 拶

私は昨年八月末北京から引揚げて参りまして、1年近くの間浪々生活を致して居りました處、過般知人の勸説に従ひ、當協會に身を置く事に定め7月1日から本部事務室に出勤して居ります。元來土木出身であり、又學校卒業以來日本内地に生活した事無く、30年間朝鮮、滿洲、北支と渡り歩いて居りましたので、會員諸君とは從來全く御縁が無かつた者です。のみならず外地に於て平素大雑把な仕事ばかり成して居り、頭も餘り緻密には育つて居りませんし、滿鐵の様な大組織の下で仕事をして居りました關係上、此の大組織が土崩瓦解して、單獨で世の中に抛り出されて見ると、自分

常務理事 西 川 總 一

個人の力と言ふものは、全く零に等しく、顔の利かない大阪などへ出て來ては、手も足も出ない有様で、果して會員諸君の御不満を買はずに済むかどうか、頗る危惧に堪へない次第です。然し乍らお引受けした以上、私の力の及ぶ限り働いて見る積では居りますので、今後の御指導御鞭達を會員諸君に御願ひ致す次第です。

會長のお話に依れば、私の仕事は勿論本部の事務の總務もするが、事務は多年の經驗ある大和書記長が居りますので、細部は總て書記長にお委せして、私は唯大綱を握る程度として、私は主力を會の事業方面に振り向けよとの事であります。

序で乍ら、常務理事と云ふ職名は從來協會には無いのですが、目下改正手續中の新定款に此の職名が設けられる事になつて居ります。

其處で當協會の事業を如何なる方向に進めるべきかと、云ふ事ではありますが、現定款に依れば、本協會は建築界の總力を綜合發揮して、建築の進歩發達に貢献し、國家社會に寄與するを目的として居ります、處で建築と云ふものは——建築許りではない總ての仕事がそうであるが——單に所謂建築専門家即ち Architect と Structural Engineer のみで進歩發達をもたらす事は不可能です、建築以外のあらゆる専門技術、學問、經驗等の力を借りなければならぬ事はならぬ事は申す迄ありません。又國家社會に貢献すると云つても、唯會員ばかりが協會内で如何に聲を大にし叫んで見ても、中々六ヶ敷い。モット社會性を持たさなければならぬ、換言すれば社會をして大阪に日本建築協會ありと云ふ事を廣く認識させなければならぬ。我々は實名を目的とする譯ではないが、建築界以外一般社會人に存在を認められなければ、如何に社會奉仕を押賣りして見ても、買手が無ければ結局奉仕にならない次第です。

此故に（私の見る處では）從來純粹建築技術者の俱樂部的存在であつた當協會が、最近抱擁の手を擴げて、建築に直接關係の深い暖房、衛生技術者業者、或は各種の建築材料商等をも會員に引き入れて、一應建築界の總力を綜合せんとする方向に進んで來たものと思はれます、然し乍ら建築の進歩發達に貢献せんとせば、未だ之れでは不足であると思ひます。勿論一つの協會の傘下に纏める範圍には自ら限度があつて、あらゆる専門技術を同一傘下に包括する事は不可能でもあり、不得策でもあると思ふ、之は協力で行く外はない、即ち他の専門團體との間に強い結び付きをして、何時でも双方の必要に應じて協力の出来る態勢を作つて置く事が必要であると思ふ、然るに敗戦後國內の多數の専門學會、協會等の動靜は如何なるものか、私は未だ詳かに承知して居りませんが、どうも戦時中あれ程やかましく叫ばれて居た、科學技術團體も、昨今全く鳴りを潜めて居るかの様である、之は實に残念な事で、既に片山内閣の政綱にも表明されて居る通り、科學、技術の振興の聲に應じて、各團體共一齊に立ち上つて貰はなければならぬ時期であると思ひます。而して我が日本建築協會はこれ等の各種團體と固く握手して進まなければならぬと思ひます。一般社會の進歩を件はずして、建築界丈が一步前進し様と思つても、其は不可能です、丁度戦時中航空機工業の急足發達を望んで見ても、他の一般工業の水準が低くては、航空機ばかり良いものを造らうと思つても出来なかつた事實が證明して居ると思ひます。會員諸君も平素各自の専門業務に精進せらるると共に時にはモットい高所に立つて廣く社會を見渡す事が必要

であると思ひます。

次に社會奉仕と云ふ事です、前申した通り、無名では中々有効な社會奉仕は出来ません。どうしても有名にならなければなりません。有名になるには協會を單に協會員のための協會として置いては駄目でせう、論より證據今日大阪で、建築界以外の社會大衆で日本建築協會の存在を知る者が何人ありませうか、其様な有様では折角の社會奉仕も、買ひ手の無い押し賣りに終る事と思ひます。

協會を社會大衆に解放すると云ひますか或は協會がモット街頭に進出すると云ひますか、モット Popular なものにする事が必要でせう。此意味に於て協會の雜誌なども行き方を變へて、街頭の書店を賑はす様な方向に進めて見たら如何かと考へて居ます。元來建築等と云ふ事は一般大衆の興味を惹くべき性質のものであると思ふ、昨今こそ國民の大部分は手から口への生活に追はれて、建築の趣味などに没入する餘裕は無いかも知れませんが、社會が安定すると共に建築に對する興味が湧いて來るに違ひないと思ひますし、又左様な方向に社會を導く事が建築技術人としての務でもあらうかと考へます。Popular にすると申しても、又餘りに俗ツポイ但敷なものにして、唯賣らん哉主義に墮する事を避けなければならぬ事は勿論です其邊の呼吸は六ヶ敷いとは存じますが、免に角一考して見る價值のある事と信じます。

斯様にして我が協會の抱擁力を大にし、他の關係團體との握手を強くし、且つ社會大衆にポピュラーなものに仕上げた後には、我が協會が他の總ての科學技術團體を引き連れて匪策の一たる科學技術の振興を現實化する爲め、關係團體から多數の科學者、技術者を匪會及び關係に送り政治に科學性を附與する處迄行き度いと考へます。

誠に從來の日本の政治には科學性が無い、科學と云ふ堅固な基礎の上に建てられた殿堂では無かつた、之れ一に政治家が所謂「六感」に頼り過ぎ根據の無い「腰だめ」政治を以て政治の本質と心得て居た爲であり、其結果今度の敗戦の憂き目を見たと云つても過言で無いと思ひます、今後の日本の政治は此點に於て大いに改革されなければなりません。之が爲には科學技術に充分の理解ある政治家を多數匪會に送る事が必要でせう、此の事は終戦前迄數十年の間若い科學者、技術者に依つて常に叫ばれて居た事です、終戦と共に聲を潜めてしまひました。恐らく之れは一時的現象で其内に又此の聲が大きくなるに相違ないと思ひますし、又左様な世の中にならなければ、日本は永久に救はれないと思ひます。

建築技術者も、若い中は大いに専門技術に精進せらるべきだと思ひますが、經驗を積み、人物が圓熟すると共に追々技術の殻を脱いで、廣い天地に進出し、救國の大事業の一端を擔ふ様に成つて頂き度いと考へます。（完）

住宅復興とこれからの住生活

戦災復興院技術研究所長

藤 田 金 一 郎

大戦争の後には戦勝國も戦敗國も同じく住宅難に悩まされるもので今度の戦勝國たる米國や英國でも住宅難は深刻で、英國では先頃住宅のない人々が騒ぎを起した事は御承知の通りであります。

ましてや、我國の様に都市の大部分が焼失し、しかも産業復興、生活安定が得られない現状では四百餘萬戸からの住宅復興は、それに必要な龐大な資材を考えただけでも容易ではない上に、今度こそは「禍を福に轉じ」て前より住みよく文化的な都市と住宅とを復興せねばならぬ事を考えると今や住宅復興の問題は國民の輿論と各方面の協力とが盛り上らねば出来ない大事業である事を痛感するのであります。

それでは、住宅復興を促進するには如何なる方策を必要とするのであらうか？それを考えて見たいと思ふのであります。

先づ第一に、現在乏しい建築用物資を政府の計畫による住宅建設等眞に必要な建築へ公平に圓滑に配給するために、建築の統制強化と建築主要物資の切符制とが實施される様になつた事は、新聞、放送等でも御承知の通りであります。

第二に、此限りある資材の有効な利用と不足を補ふための代用品の育成とが必要であります。木材や釘、ガラス、セメント、屋根葺材、壁材が不足で、それが石炭や資源の不足、輸送や勞務の事情から遽かに増産が期待出来ない現状では、技術的の考案研究によつて資材の利用率を高めて乏しい資材で少しでも多くを建設せねばならぬと同時に、國內未利用の資源を開發利用して不足資材の補充を圖る事が必要であります。漠然と輸入を期待して此自力更生を怠ることは漠然と復興を見送る事となるであらう。山野の草や竹で壁や天井に用ひる立派な建築板が色々と出來てゐます。薪にしかならぬ雑木の枝で鋼鐵製ボルトよりも性能のよい木栓が研究せられ實地にも應用されました。竹釘は改良の餘地はあるとしても、今拂底してゐる鐵釘の代用になります。ガラスや煉瓦や瓦も石炭不足で出廻らないのですが、石炭の餘り要らぬ代用品も研究せられ、小規模乍ら生産は開

始されてゐます。

一方、大工任せの家屋の構造法を改良合理化して、木材や鐵を相當大幅に節約出来る幾多の優秀な研究と考案とが生れつゝあります、一例として膠着劑で木材を結合し釘、鋸、ボルトを省略すると同時に木材も節約する方法であります。

此等研究の成果を活潑な技術指導により其普及を圖り、工業化を促進すると共に更に研究を進める事は住宅復興促進上の急務と存じます。

第三に勞務費の節約であります。勞銀が高く工費が高んでは安い住宅が供給出来ないので、作業の器械化による勞務費の節約を圖るべきであります。簡易な木工器械が考案せられこれによつて少年工等未熟練者でも普通の木工の數倍の仕事をし得る事は研究済みであり、既に一部で實施中です、又、木工場を組立家屋生産用に轉換して住宅の器械加工多量生産方式による勞力費の節約も大いに期待し得るものがあります、簡易木工機の普及と器械木工の養成と家屋の工場多量生産の推進とは住宅復興促進上の急務だと存じます。

第四に災害の防止についてであります。大風や火事、地震で年に失ふ建物を護る事は住宅難の緩和上極めて必要であります。此頃のバラツクは大風又は火災に對し實に不安なものが多く、風當りの強い場所では遅くも此秋迄に控柱や筋違で補強し、屋根の鐵板や「ルーフィング」は「地」に充分釘付し柱は土台に緊結せねばならぬものが大分ある様です。去年は珍らしく大風がなく無事に過ぎたからと言つて今年もさうとは限りません。又防火については、自分の家から隣家又は向への家迄、それが木造平家なら六米、二階家なら十米以上距つてゐないと延焼をうける危険に曝されてゐる譯で、外壁を塗壁にするか特別に消防の用意が要ります。

第五に住まひ方と住宅設計計畫についてであります。住宅一戸の廣さは制限をうけるのでこれからの住宅は狭い乍らも便利で衛生的な簡素乍らも趣味もあり寛げる設計でなくてはなりません。住人は家庭の事情に合せて隅々迄無駄なく利用す

る工夫が必要です。例へば台所、居間等の手頃の釣棚や小棚、押入内の小棚、屋根裏縁側下、床下を物入れとして利用、大便器の防臭防虫蓋等、小さい工夫一つで狭い家の内がどんなに便利に清潔に住めるかいくつかの巧妙な例を知つてゐます。

併し乍ら、如何に工夫しても例へば十二坪に五人家族では浴室や洗濯室を設ける餘地はなく病人があつてもその安靜も隔離も出来ません。客があつても靜かに話も出来ず、子供も落付いて勉強が出来ない。そこで、一群の住宅が協同で浴室、洗濯室を使用し、更に又勉強室、娛樂遊戲室、それに病室、産室の附屬した、謂はゞ「近所クラブ」と言ふ様なものが共同で使へたら銘々の住宅は狭くとも文化的で保健的な生活が出来、經濟的であると同時に、主婦は風呂焚き、掃除の時間が短縮出来て、教養の時間が得られます更に炊事食事を近所協同に經營すれば台所が狭くて済むだけでなく、主婦は炊事と配給取りの重荷から解放されます。現在、生活の習慣から一時に飛躍する計畫は慎まねばなりませんが、場所に應じ居住者に適合する様な協同生活の方法を互に研究し、近隣協同住居計畫を樹て、實行するならば、各自の住宅は狭くとも、能率的、文化的な生活が確保出来ます但しこれには銘々の生活に相當の切替へが要るので、これから家を建てる人達の生活向上の熱意と近隣協力と建築家を交へての研究とが是非必要で

あります。

最後に私は二十數年前の大震災後の東京復興を皆さんと共に回顧して此話を結びたいと思ひます。それは何か？百貨店、銀行、劇場、ホテル、官公衙、學校、丸の内、櫻田門一帶は成程立派に復興したが都市の大部分を占める住宅と小商店とは昔乍らのみすばらしい非能率的なもので而かも雜然と密集し、日當りや風通しが悪く、其上燃え易い「紙と木」の家屋であるので、どこかで火事が出ると、忽ち大火事となり多くの財産と人命を失ひ貧困を招いたのであります、民衆建築の改良に積極的な努力の足りなかつた建築家にも罪があるが「住まひは雨露をしのげば足る」と言ふ消極的な舊式の國民の住宅觀が無意識乍ら根強い障害になつてゐます。住宅は生活建て直しの本據です舊習を打破し能率的文化的な都市と住宅の實現の爲に進歩的な計畫を樹てねばなりません。

當分の間應急的には木造で我慢せねばなりませんが、木造でも或程度は大風と火事とを防ぐ事は技術的に講すべき方法のある事ですから、應急住宅でも、出来る限りの防災方法を盡さねばなりません。又物資生産の「復」と共に、都心部の住宅、店舗は全面的に耐震耐火のコンクリート造とする事が可能でもあり是非せねばならぬ義務を我々は子孫に對して負ふものである事を申上げて此話を終ります。(終り)

新しい住生活

羽 仁 説 子

いままで、建築に關して、外國のすすんだ様式がとりいれられなかつたわけではないが、それらの多くが官廳とかホテルとか學校とかいう場合であつて、住宅について試みられる場合が少なかつた。少なかつたばかりでなく、「そとわく」だけが文明化されても、日本の家庭生活自身が改革され、歩みよつて行くという動きがないときに、それは中途半端なところにとどまつて正しく發達することは不可能であつた。

ところがいま私たちは、戦争の破壊という悲惨な結果によつてではあるけれど、因習的な生活を捨てて、新しい實質的な生活をとらなくてはならなくなつた。あらゆる面で、日本が新しくなるためのよい機會である。好むと好まざるとにかかわらず、國民の生活が急激に動いてゐるという實情を捉えて建築家たちは、國土計畫的な見通しにむ

かつて、國民の住生活をひつぱつて行つて欲しいと思う。日本の現状において、材料の制約のなかで住宅のひとつひとつをつくりつばなものにするということは考えられないことであつて、その點からも現在の課題は、國民の住文化の向上——住み方の變革ということにあるべきであらう。

いつたいいままでは、一部のお金持のまた地主の都合に左右されて、都市計畫より、建築物が配置されていたといつてもよかつたという有様であつたけれど、これからはもつと計畫的に國民大多數の福利幸福の觀點から反省されなくてはならないと思う。あらゆる場合にその民主主義の理想が建築家の熱情によつて、國民生活の中に深く食入つて行くことが出来るのである。建築家が、御注文のまにまにお好みのものを作るというような卑屈な態度はすつぱりと捨てられなくてはならないと思う。建築家は藝術家であるはずだし、更に科學者でなければならぬはずである。日本再建のために住文化がはたすべき大きな役割を建築家は正確に自由につかんで欲しいと思う。

それにもかかわらず、いぜんとして建築が舊態勢の個人的な好みを追いまわされているので

はないかというような気がする事が少くない。復興都市計画などについても理解と熱情とを持たない建築家がなくてはならないのである。私はかつて、學生の頃、建築中の帝國ホテルの足場の間をくぐつて、ライトさんが、御自分の建築計畫について若いものにむかつて、熱情こめて説明されるのをきいたことがある。あるときは夢を語るように美しく、あるときは新しい建築的試みを語つて物理學者のように、あるときは建築家を理解しない俗物の批評を攻撃してはげしく、學生たちの心を揺つて、忘れがたい印象を刻んだ。建築には、指導者的、豫言者的風格がなければならぬのだと思う。物の點には全く恵まれない現在の日本に於いて、藝術が、文化が、學問が、科學が、十二分に生かされるよりほかに私たちの生活をまもることが出来ないはずである。それなのに、建築家がいぜんとして物に、金に制約されているというのではあまりにさみしすぎると思う。

現在の日本においてそれがすべて課題であるところの、社會的なものになれ、ということが住生活においてもまたその目標でなければならない。私たちの非社會的孤立的な封建的因習を打破して、近代的社會的な文化を建設することが現代の使命である。殊に、個人的、孤立的なものにされて來た住宅問題を、解放的、社會的な住生活が營まれるようにすることは、日本が民主主義社會にむかつて前進する重要な一步である。ところが、實際は、この無茶に高いお金を出した木材で、板塀をたたきまわしているのをそこに見るのだから、なさけなくなる。せまい自然發生的なうねうねした道に、板塀だの垣根だのこせこせとたちならんで、道を歩いても少しもたのしくない。垣根があるからそのすきまからひとがのぞきこみたくなるのだし、塀の陽かげに水がたまり、紙くすく吹きよせる。これまでの日本には、建築のさまざまな造形をたのしんで歩くなどということは出来はしなかつた。なにもかも焼けてしまつて、焼あとのバラック住いに、塀も垣根もなく、トタンばりの入口にそつて、つゝじの花が咲いている風景に、新しい自由な美しさがあることが感じられないのだろうか。

垣根は、ただの垣根ではない長い間の封建社會に生きて來た日本國民の被壓迫民の根性が私たち

のなかにのこつて、とれないでいる証據である。垣根は封建社會の遺物である。大きな邸宅に城廓というならよいかもしれないが、それとてももうこれからは、個人の邸宅の大なのをかまえるということは、近代的な社會には不合理不似合のことであつて殊に都會の住宅はなるべく面積をとらないものほどこつたものになつて行くはずである。そこに垣根の存在などは第一否定されなくてはならないものとなる。自分の家を他から隔離して、殻の中のような生活をするという匪民のとらわれた氣持を解放することが、建築家の任務であらう。どんなに小さくとも家にかえれば、男は主人で女房子供を横柄に叱りとばすことも自由というみじめな自由は、封建社會に許された小さな自由である。窓に目かくしの板をたたきつけて、部屋の間でははだかでねころぶというようなことは、建築的にはみにくい格恰である。人間がはだかになつて思いきりのびのびしたいといふ慾求は、もつと社會的に、テニスをするとかボールをするとか泳ぐとかスキーをするとかいう様に解決されなくてはならない。日本人は散歩ひとつだつたのしくスポーツとして勵行する習慣を持つているひとは少い。建築家たちが塀をつくる事でなく、その家の延長として近くに散歩路を考えてくれることである。日本には車道があるけれど、人道がないという皮肉をいわれるようではしかたがないと思う。一軒の家をグループ住宅にするとかアパートにするとことだけでなく、散歩路や廣場も一軒の家に附屬するものと考えられなくてはならない。個人の生活は出来るかぎり簡素に社會生活は出来るだけ豊富にということがこれからの私たちの健全な住生活でなくてはならないと思う。

個人生活を簡素にするためには、社會生活を豊富にしくはならない。いままで、私たちの住宅が外にむかつて解放的であることが出来なかつたのは、家が孤立していて社會的な保護も援助もなく生活が簡素でなく、繁雜でごたごたしきつていたからである。せまい家の中でなにもかも辨じなくてはならないのだから、四季、家の中はごたごたとしてゐる。せまい台所に野菜を貯藏したり、縁の下にはまきををつめたり、客用のざぶとんだ、病人の便器だ、子供の机だ等々で、押入れ押入れが欲しく、ひどい貸家でも押入れの多いのが親切なこ

とになり、せまい家が窓を犠牲にしたり、部屋を狭くしたりしているなど、つまらないことである。なんでも自分の家にとりこんでおかねば安心が行かないというような原始経済的な気分を清算してもつと計画的に考え、自分の家に貯蔵して貯蔵法が悪くて無駄をするというのではなく、公共のかたちで解決して行く努力をしなくてはならない。冬物だ夏物だといつて、かややマントやこたつを行李につめたりだしたりせまい物置にかさねて苦勞をするかわりに、完全な倉庫にあずける。赤坊の牛乳だつて、食料品だつて一軒一軒で貯えようと思えば水道をだしばなしたり、風通しのよい窓にはいちようをつるしたりのかわりに、共同の冷蔵庫があればそこにあずけて心配はいらない。これからの簡素な家庭生活には、こうした生活のプールというか、生活のセンタアが必要である。配給ものなどもここで一まとめにとつて、粉などはまとめて保管しておく。希望でパンをやくにもここにかまどをつくれれば、一けん一けんが小さな製粉機だのむし鍋をいじりまわさなくてすむことになる。主婦が交代でこの事務をしてもよいし、生活協同組合組織に結びついて動かして行けば一そうスムーズに行く。生活に關するものは生活センタアで計画的にとりあつかわれることになつて、はじめて、家の中が簡素となり、一軒一軒の家は最少でカンファタブルなものとなる。今日、アパートといふながら、これに社会的な問題の解決が不徹底であるため、結局、一軒一軒の窓にも入口にもうすたかく小荷物がつまあげられ、みにくく不便となる。

一軒一軒で風呂場を作つたり、洗濯のたたきをつくることは、これからはぜいたくであつて、じめじめした小さい流しのかわりに、共同の合理化された洗濯場をもたねばならない。しかし、これまで、すべて共同の施設というやうなものについて生活の面から——その使用者である婦人の側から、實驗や工夫や研究がなされ、報告されるということがなかつたから、共同洗濯場といつても一應の形式だけで、殊にその計畫に、その生活者集團それぞれの特色が生かされるというやうなことは出來ず重寶のやうで、大してとびつくほどの施設でもないということが多かつた。これらに對しても、建築家が積極的に、實驗的な機會をつ

くつて主婦たちの報告を求められたら有意義だと思ふ。いままでは共同施設の幼稚のために、共同ということ、社会的であるということそのものに對する迷いや疑いが生じてしまうというやうな有様でもあつたと思ふ。戦後十五坪住宅しかたてられないという状態で、水道もあらたにひけない都市外廓などでは、その小さな家がひとつひとつ井戸をほりあげているなどという無駄が平氣で繰りかえされているのをみると、建築家の腰の弱さというようなことを感ぜずにいられない。戦後、もつと大膽に、新しい型のアパートやグループ住宅などの試みが行われたらよいと思ふのに、それも遅れたものであつた。いままでのやうなお役所仕事でない民主的な組織として住宅營團、住宅組合というやうなものがつくられてよいはずだし、資本家のなかにも少しは住文化の向上のために寄與してもよいとし、建築家が理想を説いてみるべきひとたちもあるのではないだろうか。

農村の住生活についても、徹底的な改革が加えられなくてはならないはずである。農村においては家庭生活、住生活だけでなく、出産關係における封建性の拂拭のために、それが大きな役割をもつからである。しかし、農家はほとんど戦災をこうむつていない。都會の場合のやうその改革に容易な機會を與えられているのではない。しかし、今日、幾分でも農村の經濟狀態がよいという點に目をむければ、社会的公共的な建築物を盛んにすることである。そこで新しい住文化に對する教育を受けることになるし、そこで社会的解放的な氣分を農民のなかにつくるのが出來れば、近い將來において必らず農家の住宅改善のきつかけがつくられると思ふ。かつて、私たちが東北の農村でセツトルメント事業をしていた頃、そこに通つて來ていたある貧農の主婦が、自分の家の台所の改善を熱心におもひたち、自分で工夫し設計して流しのところに丸い窓をあけたり、下に風通しをつくつたり専門家をおどろかしたことがあつた。初級中學校のために建築をする村なども少くないやうである。それらの場合に建築が、充分啓蒙的な意味を生かして、新しい型の公共建築物を、社会的な機能を十二分に生かした建築文化をたかくかかげ、うちたてて下さることを希望してやまない。

(完)



正倉院のことも

池田谷久吉

正倉院とは元來最も貴重なるものを藏める倉のことであつて、遠く奈良朝時代には大藏省や諸大寺などには孰れも正倉が設置せられてゐたことが古い文書に見えてゐる。然し現在残つてゐるのはたゞ東大寺の正倉のみで、現今一般に之を正倉院と呼んでゐるのである。それで正倉院はもと東大寺の所屬であつたのであるが、明治以來帝室直屬の寶庫となり、今日に及んでゐるのである。

扱てこの正倉院が古來世に喧傳されてゐる所以は、云ふまでもなくこれが帝室の勅封藏として、聖武天皇の愛玩遊ばされた御物その他奈良朝時代の善美を盡した藝術品が幾多襲藏されてゐる點にある。又その價值から云つても、正に日本が世界に誇り得る東洋藝術の粹を萬般に亘つて藏した一大寶庫と云ひ得るのであつて、今後此等の寶物が世に公開されるとともに、益々人々の驚嘆を集めるものと思はれる。今これ等の寶物がどうして東大寺の正倉院に藏されたかと云ふと、聖武天皇は天平勝寶八年(西紀七五六年)五月二日崩御された。そこで光明皇后は先帝の御冥福を祈願する念止み難く、同年六月廿一日即ち先帝の四十九日の忌日に當つて、先帝の在せし日御調変品、御寶物其他高貴な藥品類を東大寺の毘盧遮那大佛に奉獻遊されたのである。この毘盧遮那大佛は聖武天皇が終世の御願として造立され、御信仰最も篤かりし佛である。従つて光明皇后が先帝の御遺愛品等を大佛の寶前に奉獻遊ばされたことは、先帝の御追福として最も意味あることであつたのである。

光明皇后がこれ等の御物を大佛に奉獻される時に添へられた目録があるが、これが即ち獻物帳で一名國家珍寶帳とも名付けられてゐる。そしてこの獻物帳の最初には皇后の願文が雄大な筆によつて書かれてあり、今述べた御物奉納の事情が具さに記載されてある。但し皇后の御物奉納はこの時を以つて終つたのではなく、それから前後三回

に亘つて行はれてゐる。即ち天平勝寶八年七月廿六日には、皇后は更に歐陽詢の眞蹟屏風や王羲之の臨書屏風や種々の花氈其他の工藝品を奉獻されたことが、屏風花氈帳と名付けられる獻物帳によつて明かにされる。次に天平寶字二年に至つて、支那の書聖と云はれる王羲之及びその子王獻之の眞蹟が先帝の御齒底に残つてゐるのが分つたので、同年六月一日又もや之を獻納遊ばされた。之が大小眞蹟帳と云はれるもので、今回の特別展觀に供されたものである。それから同十月一日に至ると皇后の御父藤原不比等公の眞蹟屏風を同じく大佛に獻納遊ばされてゐる。これら等のものが悉く今の正倉院に納められたのであり、又正倉院御物の主體をなしてゐるのである。この正倉院には大佛開眼の際の佛具、法要具や稱徳天皇大佛殿行幸の獻物などが襲藏されているが、孰れにしても奈良朝の貴重な寶物許りである。夫故にこれ等の寶物は代々世々非常に尊ばれ、御倉の開封は常に勅許を要し、如何なる権力者も未だ嘗てこの掟を破毀し得なかつたのである。

そこで先づ御倉の建築であるが、外觀上から云ふと南北に長い東面する四注造の屋根を頂いた一棟の建物である。そして床の高さが九尺もあることが、一見して他の建築物と甚だしい相違を示している。又内部は南、中、北の三倉に區分されてゐて、この中、南北兩倉は三角材を井桁に組んだ所謂「校倉造」になつて居り、又中倉は板倉になつてゐる。この床の高い建て方と云ひ、校倉造と云ひ奈良朝當時行はれた寶藏建築の典型的な様式を示すものであつて、通風、防濕、防虫害などの點を充分考慮に入れた構造であると云へる。ところがこの建築に就いては一問題があつて、最近南、中、北三倉が同時に出来たと云ふ説と、一方中倉だけは後のものと云ふ説とに岐れてゐる。今度正倉院御物特別展觀に際して西下せられた石田茂作博

士は、この問題を探り上げ、文献と實地調査の二方面から中倉は後に出来たものであるとの推定を下されたが、正倉院建築の問題は今後の學界に重要な一研究課題を與へたものであると云へる。

次に御倉に納められた寶物であるが、その種類から云つても文書、文房具、箱類、鏡類、繪畫、染織刺繍品、遊技具、工匠具、裝身具、屏風類、樂器類、樂面、武具、佛具、香木、藥品類其他の美術工藝品で、全く多種多様のものがある。前述獻物帳によつて見ると、例へば王羲之、王獻之眞蹟、屏風花氈帳に記された王陽詢眞蹟屏風、臨王羲之屏風、及び花氈、或は藤原不比等の眞蹟屏風などの珍貴なもので、散佚したものも相當あるが併し獻物帳記載の幾多のものが千二百年の星霜を閱してよく現今まで襲藏されたことは眞に慶賀に堪えない。聖武天皇、光明皇后の御代は所謂「咲く花のにはふが如く今盛りなり」と謳歌された天平時代である。この絢爛たる天平時代の然も聖天子の御物を留めたものが正倉院の寶物である。従つて何人も正倉院御物を以つて天平時代の最も華やかなものを象徴したものであると云ふ點に異論を挿むものはないであらう。事實これ等の御物を拜すれば、その意匠と云ひ、技巧と云ひ實に洗練されたものであつて、その濃婉華麗なる趣は寔に絶讃に値するものがあるのである。

我等は斯くの如き絢爛たる文化が今より千二百年前我が國に花咲いたことに、今更ら乍ら驚異の眼を見張らずにはゐられない。しかしてこの正倉院を通じて、天平文化を按ずるに、それが唐文化を背景にしてゐることを否定出来ない。歴史の示す如く、唐の時代は支那四千年の歴史を通じて最も隆盛を極めた時代であつて、遠く印度、波斯、西域地方、更に西洋の文物を吸収して、圓熟した一大文化を中國に出現した時代である。この文化は飛鳥時代末期より白鳳時代を通じて陸續として我が國に輸入され、この間我が國文化の發達に一大貢獻をなした。そして我が天平文化は實にこの唐代文化を背景にして結實した精華と稱し得るのである。従つて天平文化の粹たる正倉院御物には唐文化の影響が歴々と指摘されるのであつて、御物が全般的に濃婉な調子を帯びて居り、華麗な意匠を具してゐる點など、誰人にもそれが唐式趣味に投じたものなることを首肯せしめるに足るものである。爾のみならず御物の中には、この唐式趣味に和樣趣味を加へんとする苦心のあとが見える作品もあるが、又唐傳來と思はれる作品も尠ならず存在するのである。併し乍らこの事は決して正倉院藝術の世界的價值を減少さすものではない。現今中國に於いては盛唐文化を如實に偲ぶ得る遺物は必ずしもさう多くはない。しかるに我々は正倉院御物を通じて遺憾なく洗練された盛唐文化の跡を各方面より窺ひ得るのである。この意味

に於いて、正倉院は東洋文化の殿堂として彌々その眞價を昂めるものと云ひ得るであらう。

この度奈良帝室博物館に特別展觀された正倉院御物は三十三點である。これは數千點もある御物の數の上から云へば、ほんの一部に過ぎないものである。又その内容の上から云つても、その孰れもが必ずしも御物中の粹に當ると云ふわけでもない。夫故に今回展觀されなかつ御物の中にも、例へば國家珍寶帳とか、聖武天皇及び光明皇后の御書とか、鳥毛立屏風とか、扱ては樂器や碁盤や厨子や藥壺など、人々の待望久しい又拜觀すべきものはまだまだ數多くある。とは云ふものゝ今回博物館に展觀された御物だけでも、充分正倉院藝術の優秀さを世に紹介し得たものと云つて敢て過言ではないのである。今回文書としては獻物帳の一たる大小王眞蹟帳及び樂藝論、色紙詩序の三點が出陳されたが、之によつて我々は見事な天平時代の楷行の筆蹟を觀賞することが出来る。又鈔文竹、班竹、篠竹等 雀頭筆、船型の唐墨、青班石にはめ込まれた風字硯等によつて、雅味ある奈良朝文房藝術を賞美する機会にも恵まれてゐる。又紫檀木畫雙六局、密陀彩繪箱、蘇芳地重銀繪箱、密陀繪漆皮箱、銀平脱八角鏡箱などによつて、爛熟した工藝と練みのかゝつた種々の精緻な工藝技巧を満喫し得る。或は銀張山水背八角鏡、平螺細鳥獸花背圓鏡、狩獵文銀壺などに接しては、當時の鑄金藝術の妙を看取し、墨畫山水圖、墨繪菩薩像などを拜しては、天平繪畫の雅味や雄渾さを窺ふことも出来る。更に鳥木石夾纈屏風、羊象形藤纈屏風、などの前に立てば、溫雅な天平染織の味に陶酔し孔雀文刺繍帷を見守れば、華美な嗜好を偲ぶことも不可能ではない。次に又粉地彩繪八角床脚几の暈采色の鮮麗さ、白瑠璃碗、綠瑠璃十二曲長不等に見る硝子藝術の面白さ、其の他犀角把白銀葛形鞘珠玉莊刀字、翡翠竹形如意、赤銅柄香爐、紅牙撥裏尺、金銅潘、伎樂面など、孰れを見ても絶品として、天平藝術の高さを窺ふに足るもののである。此等の點より考へて、我等は今回の展觀によつて天平文化に對する理解と關心を充分掘下げることが出来るわけであり、同時に更に今後展觀されるであらう數々の正倉院御物に大きな期待をかけ得るのである。

敗戦後今や再出發の途に立つた日本には文化國家建設といふ一使命が存する。この秋に當り偶々永平の帝室の秘庫より衆人の前に公開された珍寶はまぎまぎと我等に高い素張らしい文化を提示したのである。さればこの際文化財は今後日本の文化運動に多大の鼓舞と示唆を與へるものと思はれるのである。尚ほ今回正倉院御物を拜觀して我等建築家としても種々得る處があるので、この特別展觀の舉に萬腔の感謝を捧げて、この稿を終ることとする。(21.10月建築協會見學會後記)

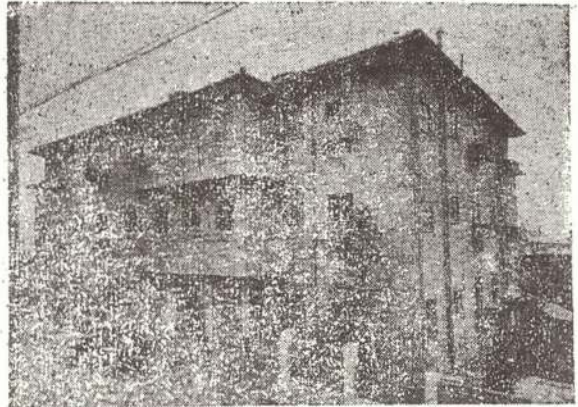
R.S.SASSOON氏の經營する 家族向アパートに就て

—武田 健三—

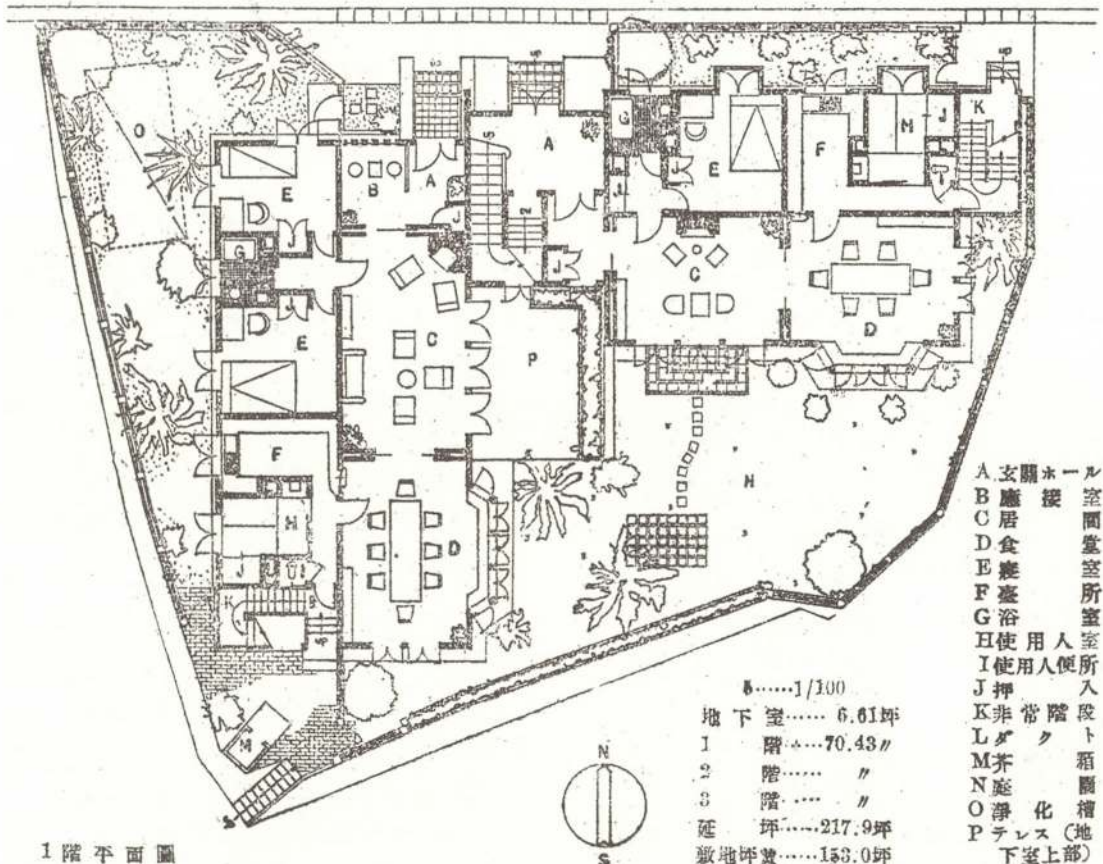
- 設計 武田建築事務所 建築士 武田健三
- 施工 株式會社 東亞建築社

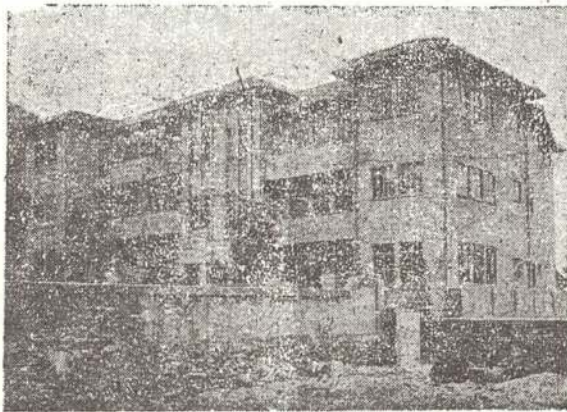
罹災地への再建築が進みかけた昭和二十年の十一月に R. S. SASSOON氏が、罹災外人向の住宅復興の計畫の話を持ちこまれて、一戸建住宅にすべきか、アパートにすべきか、經營上の問題もあり、材料入手の関係や、建物豫算や、敷地の関係等から結局木造三階建のアパートの略設計をまとめ上げたのは、二十年の十二月だった。其の後進駐軍將校の家族が神戸にも在住すると云ふ状態になり、依頼者の經營方針も變

り、將校用家族向の高級アパートにする事に決定して本設計の完了したのは二十一年の二月の中旬だった。工事契約が三月上旬で、竣工予定は六月末と云ふ事だったが、主要資材入手の関係や輸送難や、勞務者の就業状態、食糧事情等にわざわざされて、工期の延期となり、施工者、東亞建築社の多大の經濟的犠牲にもかかわらず工事契約後



No.1 建物外觀



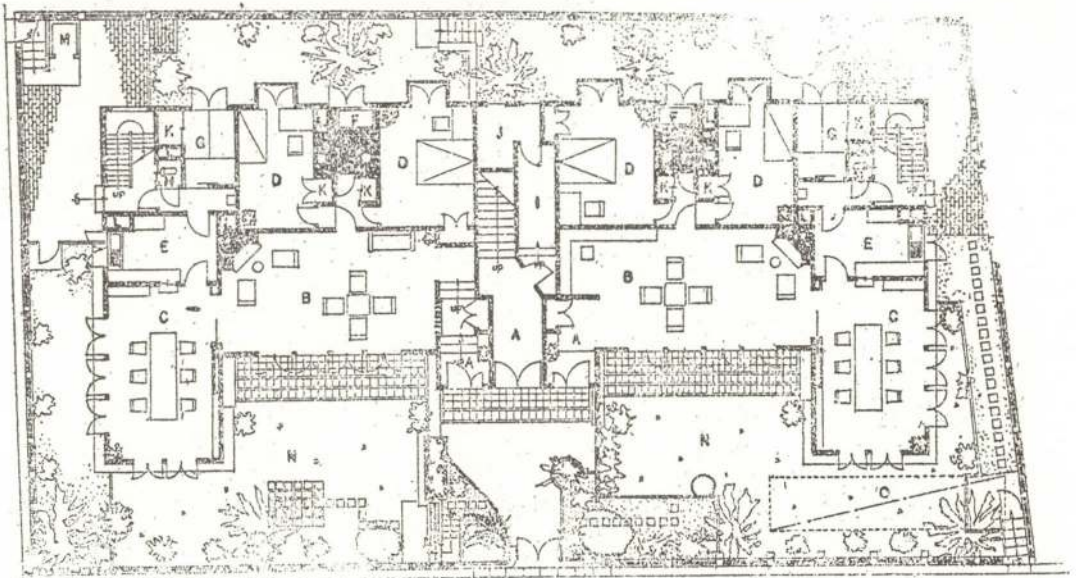


No. 2 建物外觀

A 玄関ホール
B 居室
C 食堂
D 寢室
E 臺所
F 浴室
G 使用人室
H 使用人便所
I 配電室
J 物置
K 押入
L ダクト
M 芥庭
N 淨化
O 槽

S 1/100

1 階 93.77坪
2 階 "
3 階 "
屋根裏室 2.6坪
延 坪 283.4坪
敷地坪数 213.4坪



1 階 平面圖

のインフレーションや、建物用の二次製品の製造業者の復興状態がおもわしくなかつた爲、材料入手難等で、竣工が十一月にまで延びた事は、終戦後の社会状態から見て、あらゆる悪条件を克服して、竣工したものと云へるし、當然の結果だつたと思ふ。工事に直接関係された、東亜建築社や、衛生工事の閑休工業株式会社、電気工事のキリン商會、庭園工事の金岡造園土木株式会社各位の絶大なる努力に對し、設け者として感謝する次第である。

1. 建物位置

建物位置は、神戸三宮中心街より山の手に登つた、南向の傾斜地であり、罹災前より神戸の外人居宅及高級住宅地に屬する地域の一角である。

No. 1 建物は生田區中山手通二丁目

No. 2 建物は生田區山本通二丁目

No. 3 建物は北野町四丁目

この他に山手通にNo. 4.5.6 の計畫済のものを合せて、六棟、各建物三階建のもので、今回竣工したのは、No. 1.2.3 の三棟で、合計二十四家族の建物である。

2. 平面計畫

一家族三十坪乃至三十五坪程度で、夫婦及使用人一人の場合と、夫婦及子供一人乃至二人、使用人一人の場合の二種類の要求のもとに、敷地に對し、經濟的に有効に平面配置の計畫を進めた。三つの建物を通じて、敷地に對する建物建坪の割合は、No. 1 建物で46%、No. 2 建物で44% No. 3

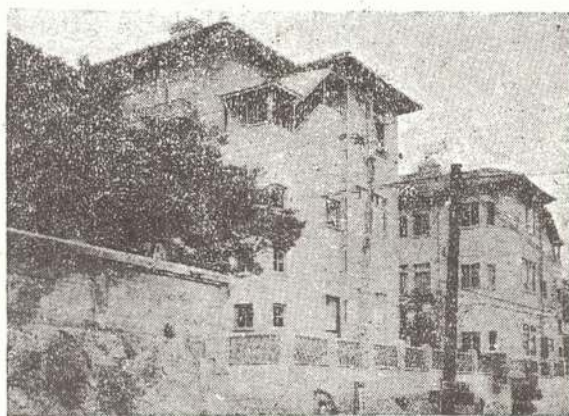
で、56%、平均48.7%と云ふ結果になり、現在の建築法規制限より多少悪条件の計画となつたが、依頼者の要求は、木造で建て得られる、最大限のもの云ふ、経営上からの注文もあり、多少の比率の超過した建坪となつたが、附近の状態、道路関係等の、緩和さるべき条件から、特に監督官廳のゆるしを得たものである。但し建物竣工後の設

計者の考へとすれば、建物が三階建でもあり、庭園其の他物干場等の餘裕を考慮すれば、敷地に對する建坪の比率は40%以下に取るべきだつたと思つてゐる。

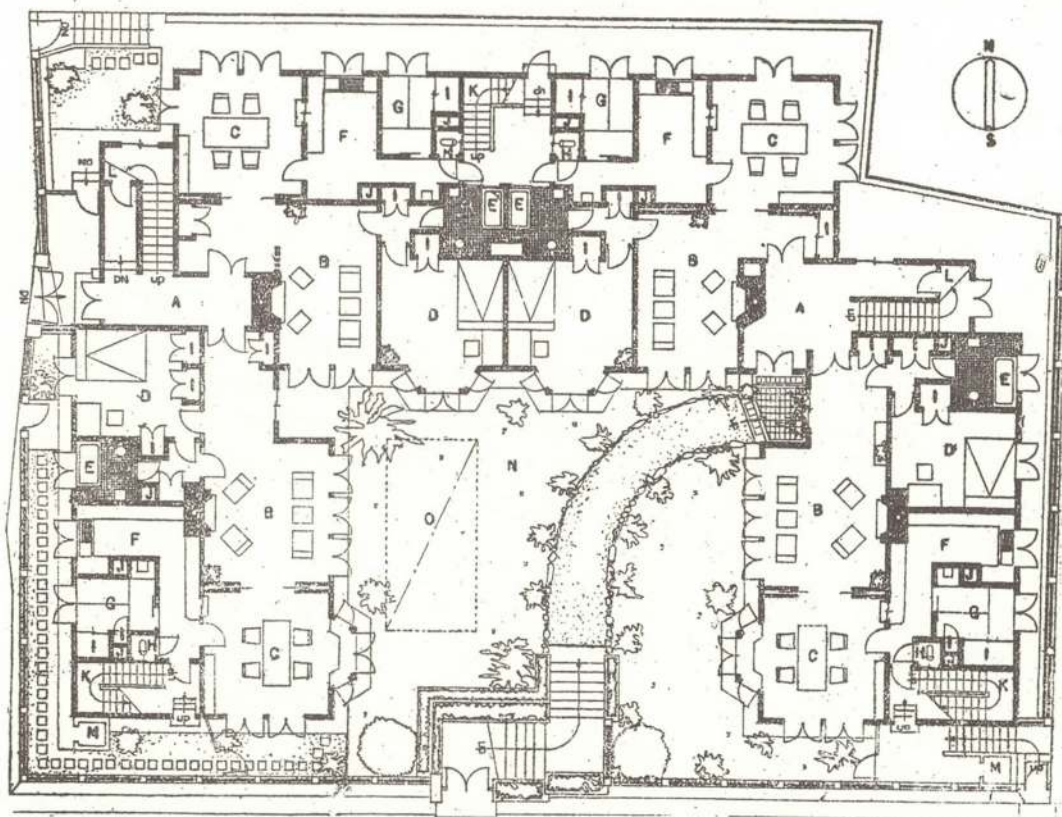
各單位家族に對して要求された室は、居間、食堂、厨房、浴室便所、寢室1乃至2、使用人和室、使用人便所、物置等であるが、建物が三階建であ

A 玄関
B 居間
C 食堂
D 寢室
E 浴室
F 洗面
G 使用人室
H 使用人便所
I 押入
J 非常階段
K 非物置
L 芥庭
M 淨化
N 水
O 間
P 間
Q 室
R 室
S 室
T 室
U 室
V 室
W 室
X 室
Y 室
Z 室

S 1/100
1 階 132.03坪
2 " "
3 " "
延 坪 396.1坪
敷地坪數 294.5坪



No. 3 建物外觀



1階平面圖

るために、主要階段の外に各使用人共通の、使用人専用階段を取り、これを非常用階段に併用した。単位家族数3人乃至6人の人員に對し一家族單位の坪数が、相當餘裕のあるものとなつたが、これは食堂を來客の場合を考慮して6人乃至8人收容を要求されたためと、居間と、食堂を獨立した計畫を要求されたために、米國あたりの中級アパートの家族當りの建坪に比較しても大き過ぎるきらひがあるが、食堂を居間の一部に取り入れる型式にすれば、単位家族當りの坪数も25坪乃至30坪程度で、計畫することが出来たであらう。現在進駐軍將校の入つている家族員数は使用人共で平均4人である。

3. 建物の構造

木造で3階建となると、耐震、耐火に對する構造上の問題が第1に生じるのだが、この計畫に於ても、準耐震、準耐火以下の程度のものであることは、原則的にまぬがれないのであるから經濟と材料入手の關係がゆるせば、少なくとも鐵骨準耐震、耐火構造又は進んで、鐵筋コンクリート造又は、工場生産による輕量コンクリート、ブロック等によつて計畫したいのであるが、現在の日本の状態では、仲々困難な問題でもあり、大いに研究すべき問題であると思ふ。

4. 建物の附帶設備

各家族の居室に、煖爐を取る要求があつて、鐵筋の入手難のため、鐵筋コンクリート造の煙突に計畫する事が出來ず、煉瓦造で施工した事は、耐震的に見て、非良心的であるが、軸組の主體構造に添はして、獨立させ、煉瓦造煙突自身に建物の荷重を加へない様には考慮した。建物使用後の状態では、煖爐は所謂、室の中心裝飾のみとなり、補助的に薪を使用する程度と云ふのが、煖爐内に電氣ストーブを置いて使用する程度であるから、構造上の無理をして、煙突を取る事は、意味のない事だと思ふ。日本の石炭事情が少なくとも戦前の程度ならば、温水煖房設備にしたい所であるがこれも現状ではいたしかたないとあきらめねばならなかつた。厨房用燃料及浴槽の給湯、室の煖房を主として瓦斯による、計畫が石炭事情惡化のため、電氣に依る事となつた爲、工事中に電氣要量の増加を餘議なくされ、配線の變更等のあつた事は工事進捗上の一つの惡條件となつた。使用後の

厨房燃料及室煖房、浴室の湯沸等全部電氣に依つて居る。各建物の電氣要量は No.1 150kv No. 2 150kv No.3 230kv である。家族當り平均 27kv である。

5. 建物の仕上

基礎 コンクリート布基礎

外壁 下地斜板張、フェルト一層張

ワイヤーラス張、色モルタル粗面仕上

屋根 フェルト一層張、日本瓦引掛棧瓦葺

内壁 木摺下地漆喰塗、水性ペンキ塗

階段室腰廻り ペニヤ板張ステイン仕上

巾木 杉製ペンキ塗

天井 木摺下地漆喰塗、粗面仕上

居間天井、化粧梁見出しオイルステイン仕上、

床 壹階床、二重張としフェルト一層の防濕層を取る。二階、三階、床檜板張、ステインワックス仕上

建具 出入口、腰唐戸杉製ペンキ塗、窓建具、兩開杉製、網戸取付可能

厨房内設備 木製食器棚、人造石研出シー部
タイル貼洗台、瓦斯レンジ置場排氣フード付、電氣レンジ 7 kw 電氣冷蔵庫 1½kw 電熱コンセント付

浴室 壁白色陶器タイル張、床磁器モザイクタイル張、床及腰アスファルト防水層5層
浴槽コンクリート、タイル貼、シャワー洗面器、洋風便器、メジシンキャビネット及鏡付

玄関及寢室 衣帽入押入兩開二段ヲ設備ス

使用人室 三帖敷、押入付、水道、瓦斯、計量器取付、呼出電鈴裝置付

使用人便所 和風大便器、水洗裝置付

其の他附帶設備 汚水淨化槽

各家族用石炭庫及汚物處理箱

庭園及門、塀 煉瓦積色モルタル塗柱型一部タイル張、木造塀

庭園は芝張、ヒマラヤシダー、玉イブキツツジ等の植樹をなす (完)

廣島、平和祭、呉

藪 中 一 良

昭和22年8月6日の朝は、ここ広島も清々しい。昨日泊つた区泰寺町の広島土建會館を尾崎常務、大和書記長と共に出て、広島支部長藤田定市、副支部長古林義敦の両氏を翠町に訪ねる。慌しい車窓の一瞥であるが、市役所や文理大など道の兩側に在りし昔を偲ぶ中に力強い復興の息吹きが感ぜられた。御幸橋からは焼けてない、が小さい被害は見受けられた。爆心より御幸橋で2キロ、翠町で2キロ半位だらうか。

平和祭の式典は平和廣場。平和廣場とは、今度の新しい名前である。元安橋を西に渡つて材木町の北部、相生橋寄りの三角地帯、150米突四方もあるか。焼跡も綺麗に片付けられて、元安川も本川も無心に清い流を見せてゐる。

8時から開會の辭、平和塔除幕、平和宣言と型通り進んで、今しも打上花火と共に市長の手で平和の鐘が全世界に響けと打ち鳴らされる。丁度歴史的のピカドンの時刻、8時15分全員平和の祈りを捧げる——これは皆AKから米國へ放送される。進駐軍、文部大臣、縣知事のメツセージ等々々。広島工業の中山氏の顔も見える。平和の鳩も勢よく飛んだ。

雲白く たなびくところ

空のはて 東に西に

おゝ高く びびびと

鐘は鳴る 平和の鐘に

いまわれら 雄々しく起ちて

その榮え こゝに興さん

——平和祭の歌第1節——

式のステージ(音楽堂)と平和塔とは市の設計。

昨日着いて道順に清水組を訪ねると最後の仕上にと久良知支店長と谷川氏とに案内された。一週間の勞作だが美事な出来映え。鐘の苦心談と共に引綱の試しに懸命だつたことを想ひ出す。全く、市長が引綱を引いて鳴らなかつたら、それこそ世界的の笑ひ話になる。われわれの樂屋話は……止めておく。

広島平和祭協會が行事の主催。数々の行事は實に4、5、6、7日を主として7月5日から8月14日迄全市域に亘つて繰り擴げられた。その中の建築關

係では都市復興展、観光建築展、建築復興展もあるが、本會支部員施工の「モデル・ハウス」が斷然光る。元幼年學校跡、堀端に軒を並べてゐるのがソレ。広島市本年度第1次分譲住宅270戸に對する11案のモデル。建坪は10坪だが市が採光通風等の保健的にと、將來の増築も算定した親切なもの。これを本會支部の精鋭、共立、鹿島、藤田、間、清水、銀高、大林、水野、戸田、竹中、広島工業の11社の出品施工なのである。一廊の入口に×9尺位の大看板に「日本建築協會広島支部會員……」と連名大書してあるし、又1戸づつ平面圖や施工者名も掲げてあるから判りはいふ。

支部の發會には4月中旬中西副會長と共に出掛けたのだが、僅の間にこれ丈成長したのだろうか。否、實はそれ丈の菜地があつたればコソ。こゝで支部の諸氏、殊に市の二村建築課長に満腔の敬意を表さねばならないと思う。

この日は朝から市民が三々五々と盛に見又熱心に訊ねて來て居た。6圓にしては仕事が良い過ぎる位だが、これを地方住生活の一轉機として一般の啓蒙に資すればその勞は酬いられるだろう。たゞ豫算と坪數を考へると2戸建や各戸の浴室などは將來の研究問題となるのではあるまいか。

尾崎西川兩氏と分れて廣島から呉。

呉は、摺り鉢の側を残して底を抜いた様な現況である。でも新しい商港目指して立ち上つてゐた廣の進駐軍將校舎宅を視る。緩やかな丘、點在する2百に近い色とりどりの屋根と壁。眺めはお断の國の様に美しい。池上技官は色彩の指示があつたので随分苦勞したという。道路が完成して、植樹が終れば違ふ美しい住宅群となろう。フト、前日のモデルハウスを憶ひ出す。あれも良い。然しこれは全く美しさだ。12キロの變壓器のつく家と6萬圓の家との對比。然し、吾人は壕舎から12坪へと進んで更に5人世帯20坪の家へと躍進しなくてはならないと、熱々考へさせられる。進駐軍のも3~5人世帯の家であるのだ。

終りに、この慌しい旅について、藤田、高谷、古林、久良知、谷川諸氏の御配慮と支部の田坂氏會員奥井忠太郎、山口尙彦、本田明三二の諸氏の御勞苦に深甚の謝意を表して筆を擱く。

(22. 9. 1.)

建築施工技術の振興を計れ (2)

渡 部 圭 吾

3. 建築施工技術

建築工事の施工とは、建築物の構想を具體化するために、遂行途上に起る一切の塵埃障害を排除克服して、その構想を實體化する行為を云ふのである。この技術は艦船や飛行機等の加工組立技術に似たもので、單一製品を作る紡織織布の製造技術とは多少その趣きを異にするものである、ただ建築工事では同一工場内で同一のものを作るといふことが出来ない、並に使用材料が土石木料等を多く使用するために、吾國では出来る丈にその附近より之等の材料を蒐集しなければならぬ點が異つてゐる。

建築物に關する技術は之れを「三つ」に別けることが出来る、即ち設計技術、施工技術及び使用技術等である、此點も艦船、飛行機等の技術と同様である。前二者は建築物を作るための技術で、その工程の上からの區別である、最後の使用技術は人間の生命を保持し生活を持続するために、建物を有効に然もその生命を長く改善するための技術である。大きなビルディングや公共の建物等の管理使用には建築技術者が當つてゐる、一般住家では主婦がこの箇に當つてゐる。吾國の現状ではこの使用技術について特に研究されてゐないし、關心をも有つてゐない、ただ自然の發達に任せられてゐる。建築施工技術も最近著しく發達して來たが、設計技術に比すれば甚しく遅れてゐる。艦船や飛行機等の、この三技術が平行してゐるのに比ふれば、建築技術は駁行的な進歩をなしつゝあると言へる。

最近三十年間に於ける施工技術の進歩は著しいものであつた。が、未だ歐米のそれに及ばぬところが多々ある。以上は施工技術に關する文献や論文の少ない點でも解る。斯く施工技術の遅れてゐる原因は種々様々の理由からであらうが、この技術に科學性を有せなかつたこと、施工業者の文化技術の水準が低かつたこと、當事者が營利のみを遂ふて注意をこの方面に向けなかつたこと、機械

用具の發達が遅れてゐたこと、大きな建築物の建造が少かつたこと、當局者が建築施工技術の進歩發達に役立つような教育も訓練もしてゐなかつたこと等である。特に、建築施工技術の何物であるかといふ點について、充分に認識してゐるかどうかを疑はざるを得ない點もある位である。

第二節を繰返すことになるが、技術はその技術に必要な知識を適性有能な者に與へられ、訓練や經驗によつて能力化せられたものである。學問や知識は技術の根元ではあるが技術ではない。技術的製品といふ言葉はあるが、製品は技術でない。又技術的裝置はあるが、裝置は技術ではない。即ち、技術は物質ではないからその表現は六かしいが、次に近代合成化學の行程を借りて説明しよう。

技術の行程説明圖



知識が訓練といふ溫度や壓力を加へた容器の中でその技術に適した性能といふ燃料にふれた時に技術となるのである。故に知識や經驗があつてもその人にその技術に適した性能がなかつたら知識が技術化せられない。最も適切な性能を有するものこそ優れた技術者となり得るのである。訓練も適切なものであれば技術者となる速度は早い。經驗があつても燃料が適してゐなかつたら同様に技術者となることが遅くなる。故に技術を體得するには性能が重要な役割をなすものであることを記憶せねばならぬ。恰も石油合成に「コバルト」を使用すれば収量が多いが、鐵を使用すれば収量が少いと同様である。

知識も同様で建築施工技術に必要な「學」を撰んで、攝收能力あるものに與へられなければならぬ。技術化の妨害となる知識や性能はその収量を少なくする。淳化せられた知識、優れた訓練、最適な性能はその技術の天才を作るものである。

専門的な知識はその技術に必要なものゝみを

多くの學問の中から撰別して與へられ、攝收せられなければならぬ。然も、その知識の混合に關する率はその技術に對して一定のものでなければならぬ。この混合の百分率を決定するのが當局者の責務である。

建築施工に必要な知識は工事の實際を分析して調査しなければならぬ。斯くして、その知識とするに必要な「學」を現代の科學、工學その他の學術中から選び出て教授されなければならぬ。然し建築施工は全般の學問に亘るものであるからといふて凡てを細かに教へる必要はない。特に必要な部分のみを、教へられる人の程度によつて、撰ばなければならぬことは勿論である。以上によつて技術の輪廓と技術者養成の概要を説明し得たと思ふ。

次に建築施工技术について説明したいと思ふ。

建築施工技术は大別すれば工學的な方面と管理學的方面とに別けることが出来ると思ふ。工學的の方面は一般に知られてゐるものであるが管理的の方面は實際に於ては工學的方面と同様に重要な技術であるが、一般には知られてゐない。現場の老練な主任技術者のみがその技術の重要性を感じてゐる。以下は管理技術の如何に必要であるかについて、建築工事現場の概要を説明しよう。工事現場とは場所を指すものでない。企業構成體である本社に對しては部分構成體であり、又一つの目的を有つ構成體である。然も技術を主とするものであるから技術構成體とも呼ばる可きものである。例せば一つの工場に相當するものである。

工事現場は工事の過程並に業務の本質から常に三つの段階を経過するものであることを知る。

計畫構成期……………準備
機構運營期……………建設
整理解體期……………跡始末

一般の工場にありては、工場の計畫構成が終れば運營の期間が長く、特種の場合でなければ整理解體されることがない。建築工事現場にありては運營の期間が他に比して短い。長い期間の工事でも三ヶ年位となれば長い方である。その上に各作業は下請側から見れば部分構成體を構成するものであるから、同じ様に以上の三段階を経過するものである。故に各作業の組合が重要となり、施工技术は工程技术と言はれるのである。

計畫構成は現場が完全に活動し得らるゝようにするための準備行為で、資材の注文、勞手間の選擇と契約施工設備の計畫と實施、事務所及び倉庫下小屋等の計畫建設、事務所の組織や制度、係員の配屬等々其他一切の準備をなすのである。建設期には各作業が着手せられ、工程表に従つて順次に建設せられて行く。此間の業務は主として監督經營であつて、工事現場の機構を擧げて建設作業を間違なく進行する様に奉仕せしめられなければならぬ。然し、建築工事現場に於ては他の工場とは異り、常に部分的な計畫構成や整理解體の業務が入り込むものであり、ある作業（杭打の如き）等にありては建設の當初に於て整理解體の業務と作業が入り込んで來るものである。後始末は駄目工事、假設物撤去、施工設備の移動、清掃片付、事務會計では清算決済その他の仕事が行はれる。丁度、圍基や將棋で三段階あるのと同様である。計畫構成には全期間を通じ如何にして最小の費用を以て最大の効果を擧ぐべきかを腦裏に刻み之れに當らなければならぬ。工事の施工途上には必らず、幾多の磨擦障害が起るものである。この中には自然現象もあれば、人間的現象もある。又偶然的なものもあれば、必然的なものもある。之等の磨擦障害を巧みに、而も容易に排除克服し、豫期の通りに建設を進めるのが施工技术の要諦であり、このために慎重にして綿密な準備行為をなすのである。

計畫構成に當りては、先づ工事の管理方式と方法即ち組織と制度とを決定するのである。次いで工程や施工方式や方法を計劃立案するのである。即ち、現場に於ける假設物、通路、運搬方法、工事機械と器具、動力、給水、通信、厚生等の各施設を立案し實施するのである。一方、材料資材の買付、運搬、下請の撰定、同手間とその細目等を決定する。更に現場事務所の開設に取りかかり會計組織、支拂方法、取引銀行等に當然起るべき事務の處理方法を決定する。以上は計畫構成業務の一部分に過ぎないが、工事期間中に起ると豫想さるゝ一切について、その對策を講じてをくことである。丁度、圍基の布石、將棋の序盤のようなもので、特に慎重綿密を要するものである。着工後に、作業が順序よく然も何等障害なく進行するか否やは、正にこの計畫構成に關する立案の如何

によることが多いものである。

第二段階の建設は管理方面から見れば、先きに構成された機構の運営であり、監督と経営の業務が主となってくる。最近の作業方式や方法は次第に標準化せられて特に新方法を採用せられる場合の外は異つたものはない。然し、今後施工技術が發達すれば、この限りではない。

これは囲碁や將棋でいふ中盤で、その定石に比すべきものである。コンクリート打作業で「ミキサエレベーター」等を使用すること、鐵骨作業で「デリック」を使用するような方式と方法、使用上の諸注意等は今日では殆んど決つた型で、即ち作業の定石となつた。勿論計劃にも定石がないではない、最も能率を揚げ得る所に、尤も重要な設備をするといふことなどは、囲碁で先づ「大場を覘へ」といふことに相當するものである。

中盤は定石の連續であるように建設期は各作業定石の連續である。定石通りに工事作業を進めるために、無駄な時間と費用とを費やさずに連續せしむる點が大切なので、こゝに管理技術の重要性がある。勿論、現場作業は、建物の種類、土地の形狀、使用器具機械、作業者の習慣等が常に變つてくるものであるから、これに對處する手段を講ぜねばならぬ、これが現場主任又は世話役、係員等の管理の手腕と能力で決するもので、碁客の手筋に相當するものである。

第三段階の後始末は、^碁碁碁の浸分に相當するもので、其重なる作業や仕事は各作業の駄目仕舞、周邊の取片付、假設物の撤去、殘品の處理、引渡手續、清掃、收支の清算、假事務所の撤去等で、特に順序よく、無駄な作業をせぬよう、然も建物を損傷すること多きときは、無益な時間と費用を要するものなれば、茲にも管理の技術が重要となるものである。この時期には企業政策上の問題が再び強く現はれるので、その處理には慎重な注意を要するものである。この後始末が甘く行かなかつたために、儲かるべき工事が儲け得なかつたり名聲を博し得べきに、却つて名聲を失ふたりすることが多いのである。

工事現場に於て、直接に擔當してゐるものが最もよくその作業に關して知つてゐる。その關係が遠ざかるに従つて其の作業に關する認識の程度が薄らぐものである。勿論、馳出しの若い係員に、

ある作業を擔當せしめても直ちに認識が深まることはないが、相當に熟練せるものならば、その作業に對して最も認識の深いのが普通である。大工事場の現場主任にありては管理の仕事が多いために各作業に對しては殆んど知らない場合が多い。問題が起つた時に實地に調査してその對策を政究し判定を與へるのである。かゝる現状から見ても大工事現場に於ける技術者は現場管理の技術が却つて重要であることを示すものである。一般の工學的の方面の問題は係りの技術者が管理する場合が多く部分的技術よりも総合的な管理技術が必要とするものである。又各作業の係員は「物差」と秤器とを常に必要とするが、現場の首腦者は管理の物差や秤器である「原價」を知ること、「常識」とを常に必要とするものである。

現場の所理が巧みであることは、現場主任を始め、下方の世話役、現場係員、下方職工が優秀なる技能と才能とをもつてゐるからではあるが、特に現場主任が有能な施工技術者であることが肝要である。大工事場に於る主任者は小工事場に於ける主任と異り、所謂技術の堪能なることも必要であるが、同時に、最も常識的であり、決斷力が優れ然も知的であること、並に熱し易しく、一方的に猪突する性格のものより、反省的な、常にその方向を見失はないような人物であることが望しい。こゝに、少しく現場管理に必要な性格と能力について觸れて見たのである。

以上の記述によつて、施工技術者は工學的方面の研究によつて完成せられるものでないといふことが理解せられたであらう。更らに管理學の方面の研究が必要であり、その上に訓練と經驗が必要であることを知る。然も尙その技術に適した性能者でなければ、施工技術が完成せられないことが判明せられたであらう。

碁碁の世界に於て、有段者が素人の碁を見てゐると直ぐに、この人は何級位の人であるか解る。高段者は有段者の手筋を見れば何段位の人であるか解る。これと同様に、秀れた現場技術者は馳け出しの技術者の手口を見ると、その技倆の程度を察知することが出来る。同時に、かゝる優秀な技術者が一つの會社に生れば、その指導と引立によつて、更らに多くの優秀な技術者が生れる。このような自然發生的な技術者養成の方法が、こ

れまで多くの會社に採用せられてゐた。かゝる方法は希望的なもので、何等積極的なものではない。今日までは、この方法を探るよりも外に方法がなかつたかも知れない。然し、將來はかゝる自然發生的な方法では急速な發達は望めない。更らに科學的に研究調査しなければならぬ。先づ、施工技術の本質を「實際」に於て分析し、その本質を捉へ、これに合致するようなその向上方法と養成方法を探られなければならぬ。最後に施工技術は多くの人的要素が入り込むものであるといふ點については特別な研究を要するのであることを附言する。

4. 建築工事施工の磨擦障害

磨擦障害は凡そ人がある行爲をなせば、大小の相違はあるが必らず起るものである。茲に云ふ磨擦障害は建築工事施工といふ行爲のために起るものを指すのである。この障害は自然科學系統のものあれば人文科學系統のものもある。例せば、こゝに、建築物の部材として數十屯に餘る鋸骨を建てねばならぬとする、昔時にありては殆んど不可能のことであつた、今日ならば動力が得られ、これに相當する起重機さへあれば容易にその目的を達し得られる。又多量の材料の蒐集を必要とするときには、金融上の障害が起ることもあり、契約の欠陥から障礙が起ることもある。又材料の欠點から起ることもあれば、輸送上から問題が起ることもある。尙同業者の磨擦から起ることもあれば法律上の不備から起ることもある。此様なものは經濟上又は人と人との連鎖關係から起る障害である。工事事業場に於ては、所謂技術上の問題と同様に經濟上又は人事又は對社會關係の磨擦障害が起るものである工事現場に於ては、これ等の問題を無害有利に處理して行かねばならぬ。

この磨擦障害は丁度戰爭に於る敵に相當するものである。従つて兵書にもある通り、敵はその對稱となる相手方にあるばかりではなく、味方にも敵があることがある。又敵と假定してあつたものゝ中にも味方があることがある。例せば、味方中の敵とは係員の不和、職工從業者間の喧嘩等は、それである。又信頼してをつた機械設備が、取扱ひが悪かつたために故障して作業に失敗し、工程を遅らすことなども味方の中の敵とも稱すべきで

ある。到底、好意を有ち得ないと考へてをつた地方人が策外好意を示すようになったり、艱工事を豫想した構造が設計變更となつたために、容易に施工し得るようになった場合などは敵中に味方を見出したことになるのである。

又磨擦障害には偶然性のものと蓋然性のものがある。蓋然性のものは施工計畫時に、豫めその凡てに對し、最も有利な對策を講じ除去し得べきものは除去し、然らざるものは最小限度の障害に止むるやうにせねばならぬ。偶然性のものの中、特に大なるもの、即ち大地震、大暴風雨等は不可抗ナのものとして、これ迄にも其損害を業者側に於て負擔せぬのが通則となつてをつた。然し、ある程度までのものは、損害を負擔せねばならぬから、この障害を克服する對策を講じてをかねばならぬ。即ち季節的な暴風雨、洪水等はその時を外すことも出来る、小地震等はこれに耐へ得る施工設備とし、施工途上にある建築物に對しては、一時的な補強養生方法を講ずることによつて、その損害を脱れることが出来る。停電とか政治的な騷擾、ストライキ等に對するものも、その時の情況により其損害を最小限に止めることが出来る。

是等の磨擦障害を出来る丈に早期に發見し、その除去克服の手段を講ずることは、その當事者の天性によるところが多いけれど、研究と經驗と熟練とによつて容易に處理することが出来るようになるものである。これ等の磨擦障害を巧みに處理することが、建築施工技術の一面であつて、その技術の優劣が別れるところである。施工技術を研究し、經驗を積み、技術的な「勘」と「素練」とを獲得する目的も、こゝにあるのである。現代の能率増進又は合理的施工と言ふことも、この磨擦障害を、その以前に比して、より少い行爲と費用によりて除去克服する方法に過ぎないのである。

附記、此等の點から考へると、建築施工といふことは、著しく戰爭行爲に似てをる點が發見せられるのである。戰略や戰術の眞髓は直ちに建築の施工政策や施工技術に應用することが出来る。ただ、戰爭は暴力の使用であるが、建築施工にありては、平和的な施工力の使用である點が相違してをる、又一方戰爭は主として破壊であるが、建築施工は建設であるといふ點が異なるが磨擦障害を除去克服する點では同一である。又戰爭は一國一民

族の興亡を賭して、あらゆる力を使用するのであるから眞剣である、その研究も古くから始められ今日では奥深くまで掘り下られてゐる。建築施工は單に名聲とか營利のためにせられてをつた憾があるから、その態度も研究も眞剣でなかつた。けれども眞剣であつて差悶へなく、眞剣に研究し、眞剣に業務に當つてこそ眞の利益が得られるのである。全業者が眞に建築施工の何物であるかに目覺めたならば、これまでのような「誤間化して利益を得る」といふようなことがなくなると思ふ。金銭的な利益を得るといふことは、決して不正なことでも下劣なことでもない。惡徳行爲によつて儲かるが故に惡徳と見られるのである。請負業者の之れ迄、紳士扱ひにせられなかつた原因は、惡徳業者か他の職業に比して多かつた故であらうと思ふ。(以下次號)

— 會 員 相 互 欄 —

御連絡は本會書記長宛の事

★職を求む

大阪府立今宮工業高級建築科卒業28歳並關西商工建築科卒業26歳何れも市内請負會社就職希望。

都島工專建築科卒業26歳勤務先九州地方希望す。

★圖書を求む

雜誌新建築昭和五年頃より昭和二十一年度に至る同バックナンバー何冊にても可譲り受けたい

都島高工建築科にて建築關係圖書を求められてゐる。

★縁談

建築家に嫁入りたし女子大出身。

野球と盆踊

熱汗裡憂と飛球の穹ありぬ
空や秋白球は孤をあざやかに
感激の汗して吾子の饒舌な
汗の手を拍手に和しぬおみならも
危機去りし安堵仰ぐや雲の峰
優勝旗受くとき主將汗ふかず
榮冠にはこらぬ兒等の頬よこれ

おどろ

踊太鼓遠くひゞくは間違うなる
ひときわに化粧濃ゆき娘踊の輪
いきなりに手振合すや踊の輪
背高き娘踊の手振率て踊る
涼しさや音頭が風に流さるる

杜 人

註(杜人氏は大阪市土木局長浦上衛門氏)



會員章分頒の件

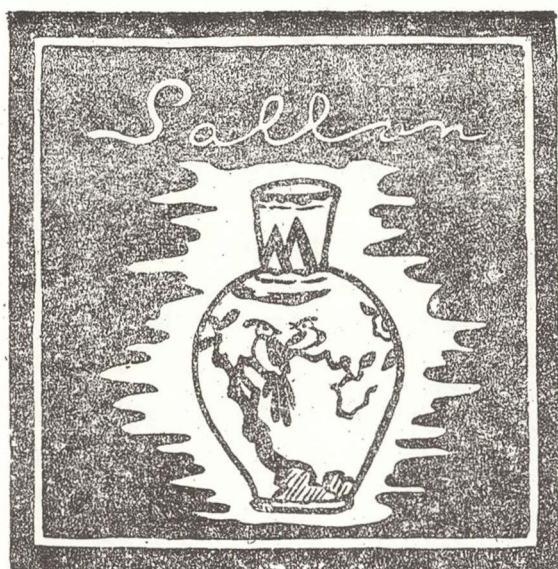
戦時製作杜絶中の會員章が七月新に出来ましたので下記により分頒いたします。今後の各見學會や其他の會合には是非必要であります。まだ御求めない向は至急御申込み下さい。

廣島支部。京都支部の事務所にも準備してありますから便宜の所で御求めさい。

代價は一個金十五圓。送料一個につき金五圓であります。

執筆者紹介

羽仁説子女史 評論作家



修 二 會

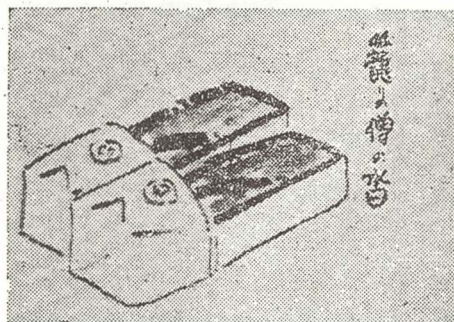
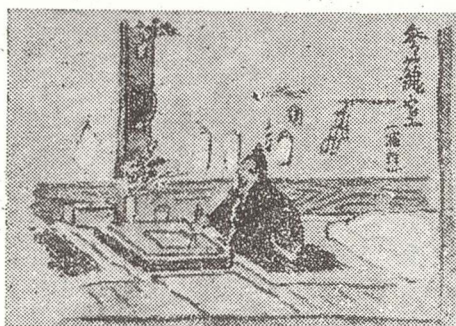
岩 佐 信 也

會務幹事會の催しで昭和二十二年三月九日まだ薄ら寒い曇りの日を押して奈良東大寺二月堂のお水取の會式（正式に云へば東大寺修二會）の内の一行事食堂の作法を見學すべく會員の一行が同寺の三月堂の前に集合した。此お水取の會式と云ふのは二月堂の下、良辨杉の際に一棟の小さな丹塗の井戸屋形があつて毎年三月一日から同十四日迄連日連夜一山の僧侶が二月堂の御本尊の前で勤行し最後の十三日の夜半に暗黒の裡に眞言秘密の行法の許に井戸の水を汲み取るのである、之を俗にお水取と云ふので修二會より此方が通りが良いのである。

見學食堂の作法と同時に序に一山の僧侶の宿舍即ち參籠所も委しく見學したが茲には此兩方を見學して始めて修二會と云ふ會式が如何に峻嚴なものであるかが窺はれるので茲に双方を見學したのであつた。此會式の間つまり十四日間は一山の僧侶は塔中各自の寺には歸らず參籠所に引籠つて勤行に晝夜を通して精進し一日一回の食事と型ばかりの食事をする、其作法が食堂で總て勤行と共に進行するのである。此食堂の作法は現今迄千何百年も昔から修二會の一つの行事として續いて來て居る。

何れの寺々の中でも大きな寺々には食堂と云ふものが伽藍配置の一條件として備はつて居る。又現在建物も残つて居るが其作法の残つて居るのは此東大寺修二會にのみ見らるゝのである。今此作法を見學したまゝに記して見ようと思ふが其前に此お水取の行法の極大體を説明して置かないと總ての順序が分らないので以下少し述べて見る。

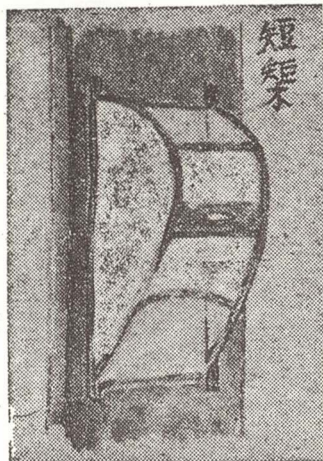
二月堂修二會は東大寺の開山上人良辨僧正の弟子實忠和尚が天平勝寶三年今から凡千二百年前此堂を創建せられた時以來今日迄斷ゆる事なく繼續してゐる、此堂の本尊十一面觀世音菩薩の悔過を勤行するのであつて之には緣起として長い話があるが茲には略す事にする。で此行法は三月一日（舊曆で修二會であるから二月）から同十四日迄續き之を二ツに分けて上七日、後のを下七日と稱して居る、而して此行法は毎日を六時の行法とて日中、日没、初夜、夜半、後夜、晨朝、の六回の法要が行はれる、其晨朝の勤行が濟



むと一休みの假寝が參籠所で始まる、極短かい假寝のまどろみから、めざめた僧達ちは其日の行法の準備に取かゝり其準備完了と共に愈々食堂入の用意となる。現今では此準備の間に訪問の客（お見舞と云ふ）が來る、其客と云ふのは講中の代表とか眞の信心家等の極めて親しい人達に限る、之

等の人々は参籠所の部屋の薄暗い中で應對される。

其部屋は僧侶の階級に依つて異り二三人相部屋もあれば又獨占の方もある、而して其僧侶達の身の廻りの調度品も置いてある、花も挿してある、至つて暗いので柱には短架と云ふ「あんど」が掛け



てある。この短架と云ふ照明器具は挿畫として置いたがまことに風流な形でよく瀟洒な住宅などに真似て出来て居る、昔は菜種油であつたが今は電燈が引込んである。此参籠所と食堂とは同一の棟の下にあつて南北に延びた長い建物

で外廻りは總て圓柱舟肘。木北寄りの参籠所は高窓連子窓を付け板戸を以て引戸とし食堂は二月堂への廊下通抜けの通路を隔て、居て東側は總て壁西及南は連子窓となつて居る、内部の床は瓦の四半敷としてある。食堂内の北寄に厨子があつて内に頻頭頗尊者と稱する像が安置されてある。又西側南寄りに表即ち西に向いて訶梨帝母の像即ち鬼子母神を祭つてある。

扱食事萬端の下拵が堂童子（童子とは字のみであつて實は中年以上時には七十才を越へた老人も居る）の手で整うと堂司は食堂で出仕の鐘を打つ、すると諸衆が堂の中に集り鐘の音につれて堂司も諸衆も着座する先づ座の前にある



鼻紙と稱する紙（半紙二つ切を四つに折つたもの）で食堂机、盤、鉢、等の食器類を拭ふのである。諸衆は堂童子に依つて摺鉢形の大木鉢に一舂

の量り飯の盛り上げたもの又椀に味噌汁の八合ほども入つたもの、副食物などを並べて貰ひ茲に食膳の萬端が揃ふのである。其揃う迄に咒師の香水加持があり、童子は寶前に齋食を供へ本堂の梵鐘を合圖に大導師の表白文の讀上げがある、次に大導師と堂司によつて、上は天皇より各大臣下は庶民に至る迄過古現在に亘りて、又は寶祚の長遠、國家安泰、如意満足等に至る迄祈願をして。此時間が約四十分位はかかるが、此續經が全部すむと茲に始めて箸を取る事になるのである。食事も一定

の時間に終ると食事前に鼻紙に包んで置いた飯の小さな包（ひねり包）を持つて一同諸衆達は屋外に出で一つは阿伽井屋の屋根に投げ上げ他の包一つは童子に渡すのである、屋上に投げたのは鳥類に施食する意他の包は獸類に施食するのである。之で食堂の作法總てが終了して諸衆達は次の會式の順序にかゝり食堂内は明日の食事の準備に片付整理に着手し明日の食事を待つのである。



まだ細かく記せば際限もないが此位で筆を止める事にする。

このお水取が済むと世間はぼつぼつと春らしく寒さも和らぎ早春の氣候は身の廻りにやつて來るので佐保の流れもぬるむ様になる。

夢太の句に 水取や潮々のぬるみも此日より。此見學はいつもの見學と少し趣を異にして居るが人として日常の食事に大に關係もあるので是非一度は見て置いて参考としてもよいと思ふて居る、茲に甚大略を記してまだ見ない方々に御紹介する事とした。（1947.5.31）

建築會館のことども

京 都 Y 生

建築協會の、京都支部が、新しく設立され、京都在住者の一員として、欣快に、たへません。既に、支部の幹事會に於て、建築會館の、設立を協議されたことは、時宜を得たものといふべく、早急に實現したいものです。この機會に新しく誕生する、建築會館はかくありたいと、一二、希望をしたいと思ひます。

建築圖書館も、その中に含まれるでせう、内外の建築、工藝、美術、科學の圖書を、網羅して、基礎理論の研究に、新しい技術の取得に、新時代のデザインについても、あらゆる資料を整備したものです。特に、戦時中、戦後を通じて、隔絶されてゐた外國の新建築も、近着の外國雜誌によつて、自由に、知ることが、出来るでせう。これからの若い人々にとつて、一つの研究の、據り所となり、創作や技術の糧として、頭の榮養を補給する所でありたい。

この機關を利用して、同志によつて、統合された一つのグループによつて、総合的な研究もすることが出来るでせう。

緑のテレスを持つ大きな談話室には、紫煙をふかしながら、大いに建築について、討論する聲が聞えて來ることです。新しい建築家によつて批判や指導も與へられることです。そこには精神と技術の交流がある、今迄のえらい方々ばかりの協會は一考さるべきでせう、一つの學園の延長のやうな、學交の場所であり、社交の場所でありたいと思ひます。

「建築や繪畫の展示室、材料の實驗室、模型室、設計室、研究文献や參考圖書を發行出来る附屬印刷工場も附隨されるでせう、一日の業務を終へ氣輕るに、會館へ足を運ぶ我々に慰安と秩序とを與へるでせう、出来得れば獨身者の宿泊室や食堂、娛樂室の便宜もあつてしかるべきと思ひます。

斯うした會館は主要の各都市に建設されるでせう、最少限各支部毎には設けたいものです。

建設の資金と資材は業者の理解に待ちたいと思ひます、維持費は會館會費と事業の収益によつてまかなふことにしませう。

以上とりとめもないことを書きましたが、要はこれからの若い人々のための會館たらしむことを希望します、その一日も早く實現の日の來ることを期待して居ります。(終り)

關西三十年組先生の思ひ出 2

高 坂 信 次 郎

前號で片岡安博士に就ての小話を一寸書いて見たから本號では同じ三十年組の武田吾一博士の思ひ出二三を御紹介して見よう、武田博士は純然たる學者で片岡さんの様に政治方面や實業界方面に擴く關與して居られなかつた關係から片岡さんの様にエポツク的な逸話といつた様なものは餘り耳にせなかつた、武田先生は緻密で細心な情に於て極めて深い方だつた様に感じてゐる、私が先生に親しく願ふ様になつたのは私が新聞關係にあり殊に昭和の初期よりは土建業界の機關紙に携つていたので先生が建築の大家である以上は假令先生から嫌はれても進んでお目にかゝらねばならん立場にあり其の中に先生からも君に是非願ふねばならん事があるから來てくれる様にと云はれる様になりそれは京大卒業生の就職問題で雇傭主の信用状態も判らんで世話をする事は餘り無責任の様だからといつて興信所なんか頼んで調査をするには學校のことだから費用も出ないので困つてゐるから君一つ氣の毒だがフリーで遣つて貰えんだろうか？其の變り僕(先生)で間に合ふ事なら出来るだけ便利をはかると云はれて一層親しく願ふ様になりお目にかゝる機會も増して來たが、勿論京大でお目にかゝる時なんか、武田教室の出入りも取次なしの自由も許されて先生と膝突き合せてお話しする程度に親しく願つてゐたにも拘らず何ふしても冗談地味に様な話なんか持出せなかつた。夫れは先生が餘りにも生眞面目といつちや禮を欠くが大學者としての自然の備りには遂ひ襟を正す様になりこんなわけで何うしても先生から面白い逸話になりそうなのは引張り出せなかつた、或は先生にはゴシツパ欄に載せる様なナンセンス物語りは持合せがなかつたのかも知れん、先生の親戚の人に尋いて見ると先生の少年期牧場福山時代は良く、あほつばなを垂らした平凡な何ちらかと言へば聊かばんやりの方に見受けられる方だつたと。だが幼少の頃から繪は特別に巧みで幼にして天才は表れてゐたと言へる。武田先生の人情味と親切について中京名古屋製陶所でバスタブが出来る様になつたから一度見學に來てくれと同社上遠野常務に招か

れたので見學に行くとき常務の目的は新大阪ホテルに納入引きせよが主眼らしかったので當時武田先生はホテルに關係して居られるし又先生は名工の先生もして居られたんだから先生に御視察願つて結果に於て先生を通じてホテルに使つて貰ふ様にしたらといつて確か自分からも上遠野氏の意を先生に通じた筈だつた其後先生から名陶のバスは大變良く出来てゐたよと話されて居たから見學された事と思つて居た後にホテルのバス問題をめぐつて東洋陶器は、赤味をおびてるが名陶製品は青味をおびた白さで兩者を洗面器や便器等の様に並列して使ふ事は色違ひで具合が悪いがバスタブの様に一ルーフに二ヶ取附けられるものは支障ないだらふ、さすれば兩者指定によつて東陶の方も大分安くなるだらふと言ふ風評がたつてゐたが何時の頃か？立消になつて東陶一本の納入になつてしまつた。こゝで話題は一寸込み入つて来るが、建築協會が九州見學を遣る事になつて東陶工場も視察の一に加へられてゐた某所で先生が特に私を招かれて、今度建築協會が九州見學を遣るが僕（先生）も行く但し僕は一日先に行つて東陶の工場でみんなと一處になる事になつてゐる、僕は一日前に行くんだよと二度も同じ事をくり返へされて私に注意される様に云はれた、其の時に自分は別に氣にも止めずにゐたし又自分も参加する豫定にして居たが當日になつて變更して代理を行かした。後日氣附た事だが先生の注意された事は前述のバスタブ問題で先生は私が名陶の納入運動でもしてると想像されて注意して下さいたものではなからうかと思ひ浮んだ實際そんな意味が先生にあつたとしたら自分は名陶の運動した譯ではないが先生の細心の御注意と人情味には全く感激させられる。又先生が細い事に留意されてることについてこの話は武田博士と特別關係にあつた私の友人から聞いた話だが、京都の某文具店（文具店として置く又何れも現存の人だから特に名を秘す）に素敵な娘さんがあつて當時何々小町と若人の血を離らせた絶世の美人であつたこれに先生の教へ子Aがゾツコン參つたがAは至つて心臓の弱い人物で自ら當る勇氣なく友人の同じ先生の教へ子Bに橋渡しを頼んだBは引受けて早速小町に陳情すると彼女の返事はAは嫌だお使の貴方ならと………夫れでは私と結婚しませうと云ふので話はトント

ン拍子で進み遂ひにBは彼女と華燭の典をあげて目出度いがAは可愛想に失戀したと武田先生から直接聽いて今更先生の細いところ迄氣をつけて居られるには感心させられたと友人は話して居た。

今一つ笑つて笑れん様なやゝこしい話でこれは私と先生と直接に起つた話を一つ御紹介して見よう。私の心ろ易い建築の某大會社大阪支店次長某から私に君に折入つて一つ頼みがあるんだが實は僕（次長）の娘の候補者を見つけてほしいんだ、娘は清水谷高女を卒業してゐる、學友には當時の大阪市長關さんの令嬢なんかもあるので相手は専門學校以上大學出の建築家なら尙結構だ、但し一寸娘に疵があるんだと聲をおとして實はね丙午なんだよ、との話だつた、夫れで此の話を武田先生に持込んで婿君の選定を御依頼した。それから次長から聽いた通り先生一寸娘さんに疵があるんです、外ではありません丙午ですと、いつたら先生妙な顔されて君『ヒニク』を云うとんぢやないよと云はれて、それつきり此問題については一向相手にして貰へないので其日はお別れした、武田先生は大阪市關係の顧問をして居られたので或る日大阪市建築課の某最高技師（特に名を秘す）に會つて先生との『ヒニク』問答を話したら夫れは君ヒニクもヒニク大ヒニクだよとの事で君考へて見給へ武田先生は大阪役所の技術者間での最高級者だよそれは大阪市だけの顧問じやない、建築課、橋梁課、電氣局とね別々に、多くさん別れてるんだよ、だから各々別々に顧問料が入つて来るから多額になるんだよ、そこに『ヒニク』の問題があるんだよ？？？此『内幕話か？』是非公開にして置いて話の泉の儘でこれを語つた最高技師に解いて貰ふ事にして置きます』此話題を糸口として一寸變つた面白い話が思ひ出されたが餘り長くなるので次の機會に譲る。

後記 本サロン欄の記事はなるべくクダケタやはらかなかのこらない讀物を掲載して他面論文や研究欄のかたい物を読んで疲勞の慰とする目的で設けられてる筈ですから讀者諸君からの投稿を出版幹事會は希望して居ります、折角の欄を幹事によつて埋めて行くと云うことは聊か心もとない氣持がするのと又會員であり誌の愛讀者の一人としても又雑誌がかたくし過ぎるからやはらかくせよと注文されてる讀者に對しても本欄の發展によつて御満足を得られることゝ想像されるのでどしどし投稿せられんことを（一幹事）

簡單なる現場英辭典

(A) ☆ 現場常用語 ☆ (2)

假設工事	Temporary works.
ガス工事	Gas fitting work.
瓦	Roofing tile.
ガラス	Glass.
形鋼	Section Steel.
繫金物	Clamp.
乾性油	Drying oil
川砂	River sand.
顔料	Pigment.
堅杭	Shaft.
カーペット	Carpet.
鈎ボルト	Hook bolt.
金鋼	Wire mesh.
硝子工	Glagier.
家具工	Cabinet maker.
瓦工	Tiler.
概算價格	Approximate price.
開渠	Open culverts.
海壁	Sea walls.
灌漑工事	Irrigation works
岸壁	Quay walls
ガイデレツキ	Guy derrick.
ガソリン機關車	Gasoline locomotive.
堅樋	Down pipe hook
	Drain hook. Rainwa-
	ter pipe. Conductor.
	Down spout. Tender.
	Spouting.
堅木	Hardwood.
合掌	Principal rafter.
	Blade.
額縁	Architrave. Case.
	Casing. Trim.
	Chambrant.
瓦棒	Roll. Wood Roll.
笠木	Coping.
雁首	Stummel. Swan neck.

(キ)

基礎工事	Foundation works.
經師	Paper-hanger.

(ク)

杭打工事	Piling work.
給排水工事	Sanitary works.
クレオソート	Creosote oil.
管猿	Barrel bolt.
釘	Nail.
杭打工	Pile-bater.
クラツシャー	Crusher.
クレーン	Crane.
堀鑿	Excavation.

(ケ)

現場管理	Field supervision.
原價	First cost.
下水渠	Sewers.
現場事務所	Field office. Office.
	Project office.
桁	Girder. Beam. Cross beam.
經師工事	Paper-hanger's work.

(コ)

構造用鋼材	Structural steel.
骨材	Aggregate.
コールタール	Coal tar.
小ネヂ	Screw.
鋼管	Steel pipe.
鋼線	Steel wire
鋼索	Steel wire rope
工事獲得	Getting.
コンクリート打	Concrete placing.
工事監督者	Superintendent.
	Project Supervisor.
工程表	Schedule. Time sche-
	dule of works.
	Progress Schedule
コンクリート	Concrete.
小屋束	Post. post strut.
	Crown Post.
腰	Skirting.

コルク板 Cork board.

(サ)

左官工事 Plaster's work.
皿 鋳 Countersunk Rivet.
座 金 Washer.
左 官 Plasterer
浅 橋 Landing pier.
棧 橋 Scaffold board.
材 料 置 場 Material yard.
鑽 井 Artesian well.

(シ)

人工スレート Artificial Slate.
常 夫 Regular employee.
使 用 料 Rights.
借 地 権 Rents.
純 益 Net profit.
砂 利 道 Paving gravel.
人 道 Foot walks.
シールド工法 Shield work.
仕 様 書 Specification.
敷 地 Plot. Lot. Area.
Building site.
Ground plot.
砂 利 Ballast. Gravel.
下 地 板 Sheathing.
Ground Board.
下 請 Sub-contract.

(ス)

敷 量 書 Bill of quantities.
ス レ ー ト Slate.
水 性 塗 料 Water paint.
仕 り 車 Sash-roller.
ス レ ー ト 工 Slater.
水 道 Water works.
水 路 橋 Aqueduct Bridges.
水力発電所 Water power Electric
city generating Station.
砂 Sand.

(B) ★ 簡単なる會話 ★ (2)

大きさ (高さ) は幾らですか。

How big (high) is it?

何色のペンキを塗りますか。

What color of paint do you want?

材料は? 仕上は? 数量は?

What material? What finish? How many?

窓 (扉) は引違ひ (兩開き、片開き、上げ、下げ、引込み、引出し) にしますか。

How do you want the window (door)

sliding, (open both sides, open one side, up and down, open inside, open upper side) ?

此の仕事は相當な時間を要します。

This work will take quite a long time.

降雨 (停電) のため工事が出来ません。

We can't work on account of rain.
(interruption of electric current.)

電球がありません。

There is no electric bulb.

電球が切れました。

Electric bulb has broken.

今日は現場は公休日です。

We are taking a day off to-day.

材料は何日に入る豫定ですか。

When do you expect the materials?

材料は何日に入る豫定です。

The material will be in _____

直ぐ着手します。

We will start at once.

其の材料は極めて入手困難です。

It is very hard to get those materials.

残業許可證を下さい。(今日は何人残業しますか)

Give me an overtime certificate.

How many men do you want left?

—(以下次號掲載す、希望要語申出られたし)—

A 計 畫

組立鐵筋コンクリート住宅 田邊平學博士 新建築 22巻45號

木造住宅と地震 田邊平學博士 新住宅 22年6號

連合軍大津水耕農園 建築と文化 第2號

アメリカに於ける組立住宅 H.S. クルーゼー氏 建築と文化 第2號

商店建築圖集 藏田周忠編 彰國社發行 40圖

店舖設計陳列 川喜田煉七郎著 商店界社 65圖

B 建 築 史

「續成瀧樓隨筆」 天沼

俊一博士 高桐書院 65圖

博士の紀行隨筆を輯録せるもの

「古建築鑑賞」 川勝政太郎氏著 河原書院 75圖

氏の古建築入門講話を更に加筆されたもので古建築の鑑賞及様式學の入門に好適である「建築文化の交流」 中口編 村田治郎、高桐書院 35圖

「エジプト史」 岡島誠太郎著 平凡社 60圖

古代エジプトの發見よりブトレミー時代迄明細に書かれた好書

「史蹟のギリシャ」 村田數之亮著 大八洲出版株式會社 50圖

ギリシャの史蹟と文化の案内書

「唐招提寺」 中村逸作、入江泰吉共著 富書店刊行 35圖

「日本の古墳墓」 梅原末治博士著 養徳社 40圖

「上代浪華の歴史地理的研究」 天坊幸彦著 大八洲出版株式會社

「比叡山に於ける鎮守社の研究」 景山春樹 史迹と美術 174號 176號

「崇福寺の遺跡に就いて、附梵釋寺址」 石田茂作博士「史迹と美術」175號法隆寺問題が下火になるに反し、崇福寺、梵釋寺の問題は白熱化して來た、最近の論争の内上の二つはそれを代表される、梅原説に對する石田説の對立である。

「平城京朝堂院等の複原に就いて」 大井重二郎氏 日本史研究 (3)、秋田屋20.00

C 雜 誌 界

建築關係雜誌は終戦後再刊或は新刊されて雨後の筍の感がある、中でも「建築學研究」の再刊は喜ばしく、再び戦前の體制を取戻しつつある事に期待してゐる。そ

れに反し、「新建築」の如きは敗戦病にかゝつた感あり、かつての「新建築」を知る者をして寂しがらせてゐる。「住宅」が「新住宅」と新の字を附して再復刊した。小林清氏の編輯ぶりは相變らず見事である。須藤眞金氏のアメリカ住宅史話は讀むべきもの。昨年春發刊された彰國社の「建築文化」は堅實な雜誌であるが發刊當初の學術性から次第に住宅を中心に性格が變つて來たのは他の雜誌の影響をうけたのであらうか。「生活と住居」も昨年秋發刊した。啓蒙的な住居雜誌だが仲々價值がある。例えば圖師嘉彦氏の「これからの住居」や今泉善一氏の「住宅工場生産化への覺書」等面白い。「建築と文



化」は美しい感じの雜誌とゆうだけ。「ビルダース・ブレテン」は最近1號が出たが失禮乍らあじきないものである。建築の雜誌でないが、アメリカのリーダーズダイジェストの1月號(原書は11月號)に當年77才(1946)のライトの生涯と彼の建築に對する強烈な意志そしてそれが、ライトの設計に如何に影響したかを面白く書かれてゐる。思想と建築が結び合つてゐる歐米建築に對し我が國の將來の建築界に反省を求むるものが多い又、同誌の昨年10月號(原書は8月號)にリチャード、バツクミンスターフラー氏の設計になる輕量、低廉、圓型プランの所謂フラー氏の家が紹介された。同じフラー氏の家が科學朝日12月號にも寫眞入で紹介されてゐる、我々建築家には大いに参考になる。

會 務 報 告

本會部會の動き 建築界の金融問題に就て

本會の各部會は目下夫々の部に於て調査研究中であるが就中建築界金融問題は重大事項で且つ業者の蒙る影響は誠に甚大なものがある。本問題は各關係團體でも夫々研究されてゐる事と思ふが本會では去る七月廿三日大阪商工會議所で大阪府渉外課坂本事務官並長尾技官、日銀大阪支店長代理玄後一郎氏、住友銀行本店岡本審査部長及三和銀行本店竹内常務を招じ本會部會主腦部と懇談會を開催し全國の建築請負關係の未拂額約百數十億圓と稱せられる代金の清算事務や支拂新促進方法其他につき活發な意見の交換をなした結果或る結論に到達したので之に善處するため目下具體案を練つてゐる。 22. 8. 2.

廣島支部の活躍

本春支部設置以來會員募集維持會員の獲得並本部發行計畫の建築便覽應援等に目覺しき活躍を續けつつある廣島支部では今般同市で舉行された平和祭行事の中主要部門である平和塔並市分譲住宅のモデルハウス建設を引受け多大の好評を博してゐる。此の建築は支部員屈指の業者十一社が選拔され短期に完成されたもので次號に寫眞やプラン等詳細掲載する豫定である、會員各位と共に益々同支部の活動と發展を期待し藤田支部長以下役員幹事各位の不斷の御努力と熱意に對し滿腔の敬意を表する次第である。

京都支部の近況

京都支部では去る七月十三日西本願寺の見學會を開催し松井支部長外三十有餘名が會した。同寺並に飛雲閣の事共は餘りにも有名であるから今茲に其建物についての説明を略するが當日は安間京都府技官の案内で滴翠園中滄浪池に面して建つ聚樂第の遺構飛雲閣を始め黄觀台、伏見桃山城の遺構四脚門、同書院、桃山城大玄關であつた玄關本邦最古と稱される能舞臺幽雅清楚な阿彌陀堂等々隈

なく見學した後當日特に同寺の好意で敷つめられた緋もうせんの書院で小憩、此處で支部今後の發展事業等につき座談會を催し参加者一同桃山時代の代表建物の貴重な國寶に滿喫して散會した。同支部では新秋九月を期して支部會館建設問題や建築資材調査委員會見學等活動に移る豫定で役員一同張り切つてゐる。日本一の都その京都支部の堅實活發な發展と支部會員の祝福を祈つてやまぬ次第である。

九州支部設立準備中

九州支部設置問題は各地と同じく創立廿五年記念事業の頃から地元有志並本部側役員とも數回懇談されてゐたが當時學會との合併問題が進捗してゐたので暫く靜觀する事となり極力會員の増加に努力中戦争峻烈となり戦後は有志も四散の状態であつた。然るに錦田氏が出京の建築課長に大阪から轉じられたのを機として當初から多大の協力をされてゐた池口設営課長とが世話係となり去る七月十四日に地元有志の懇談會を工業會福岡支部で開催された。當日猛暑の中を馳せ参じられたのは薄元營繕課長を始めとし協會が九州で催す事業に常に何くれとなく一方ならぬ援助と協力を續けられてゐる篠原竹中支店長松田昌平氏、山手通信建設支店長並田中工業會支部長外各組會社有志會員十四名であつた。

池口氏開會挨拶後本部から列席した大和書記長より經過報告や協會現在の機構事業計畫其他説明する所ありて意見の交換をして協議に移つた結果支部設立を申合せ下記發起人を互選して早急實現を計る事となり目下夫々準備が進められてゐる。

發起人(順不同)

中尾 龍彦氏 田中 勇雄氏 池 口 凌氏
錦田 直一氏 篠原政次郎氏 松田 昌平氏
日比 安平氏 西村 秀雄氏 古館 均一氏
黒木源次郎氏 以上十一名

尙代表として錦田直一、松田昌平兩氏に煩はす事とした。

復興住宅展設計圖案審査終る

大阪府本年度事業の一端として計畫されてゐる分譲住宅建設に大阪建築復興會が日本建設工業會支部にその住宅設計圖案を公募した。本會は其審

査を委嘱されたので八月二十一日に之が審査會を開き應募數八十七點の中より専用住宅十一點店舗付住宅七點を選した。

本當選圖案中優秀のもの若干を近く守口府有地に於て實物見本として建設し一般に供覽し希望者を募集される豫定である 因に本會審査員並に入選者は下記の通りである。

建築協會審査員（敬稱略）

井上 新二、尾崎 久助、大村已代治、
小林 清、瀧澤 眞弓、西山 卯三、
村野 藤吾、元吉勇太郎

専用住宅入選者（敬稱略不同）

清水組大阪支店、眞柄組、理想建築株式會社、
藤組、明榮工業株式會社、株式會社木村組、
戸田組、和田組、津島組、以上九社十一點

店舗附住宅入選者

株式會社木村組、大阪建物保全株式會社、
清水組大阪支店、錢高組、有邦建築株式會社
藤組、以上六社七點

常務會（第6回）

時 6月5日午後2時30分—4時30分
所 大ビル本會分室
出席者 竹腰、中西正副會長、大村、妹尾兩監事
尾崎、東畑、藤木、藪中、菅谷、藤阪、
石川、西山各常務

議事

1. 管工事部會幹事追加委嘱の件
2. 建築設備研究所入所生幹旋方依頼の件
3. 都市復興展覽會に出品の件
4. 支部に關する件
5. 日本建築學會支部設置懇談會に出席の件
6. 常務理事委嘱の件
7. 會員詮衡

常務會（第7回）

時 6月13日午後2時20分—3時20分
所 大ビル本會分室
出席者 竹腰、中西正副會長、淺海、志垣、須賀
藪中、岩尾、藤阪、竹中、中野各常務

議事

1. 都市復興講演會に關する件
2. 備品購入の件

3. 常務會定例日の件

4. 會員詮衡

報告

1. 4. 5 月分會計報告

常務會（第8回）

時 7月10日午後3時30分—4時30分
所 大ビル本會分室
出席者 竹腰、錢高、中西正副會長、大村監事、
西川常務理事、尾崎、木村、鴻池、志垣
東畑、藤木、菅谷、中野、西山各常務

議事

1. 會費改正其他増収に關する件
2. 學會支部問題の件
3. 朝日ビルABCクラブ會費の件
4. 職員給與、賞與の件
5. 會員詮衡

報告

1. 6月分會計報告

常務會（第9回）

時 7月31日午後1時30分—4時30分
所 大阪商工會議所第2會議室
出席者 竹腰、錢高、中西正副會長、大村監事、
西川常務理事、尾崎、木村、須賀、東畑
藤木、藪中、岩尾、樺田、佐竹、藤阪、
石川、西山各常務

議事

1. 復興住宅展審査委員委嘱の件
2. 復興に關する座談會開催の件
3. 評議員會開催の件
4. 關西産業復興會議より委員委嘱申出の件
5. 借室料値上げの件

報告

1. 各地支部動勢の件
2. 建築便覽發行中間報告
3. 金蝶問題検討の件

常務會（第10回）

時 8月14日午後2時50分—3時50分
所 朝日ビル四階 元本會事務所
出席者 竹腰、中西正副會長、大村、妹尾兩監事
尾崎、志垣、須賀、東畑、藪中、岩尾、
藤阪、中野各常務

議 事

1. 定款改正委員会より報告の件
2. 維持会員募集の件
3. 金融問題検討の件
4. 建築と社会出版に関する件
5. 職員採用に関する件
6. 会員証

報 告

1. 広島支部事業の件
2. 7月分会計報告

評 議 員 會 (第2回)

時 8月14日午後1時45分—2時30分
所 朝日ビル四階 元本會事務所
出席者 竹腰、中西正副會長、大村、妹尾兩監事、
岩尾評議員外52名 (委任狀出席者共)

議 案

- 第4號 細則一部變更の件 (會費改正)……承認
上記會費改正は8月より實施のことに決定

定款改正委員会 (第12回)

時 7月11日午後2時—4時30分
所 本會事務所
出席者 尾崎委員長、浅海、志垣、菅谷、松久保
藪中、各委員

協議事項

1. 細則原案により第1條より第13條まで審議決定

定款改正委員会 (第13回)

時 7月21日午後1時40分—4時20分
所 本會事務所
出席者 尾崎委員長、浅海、菅谷、藤木、松久保
松本、藪中各委員

協議事項

1. 細則原案第14條より審議の上終了
定款、細則共藪中委員に整理方一任の上常務會に報告することに決定

木材分科會 (第1回)

時 6月24日午後2時30分—4時30分
所 土建クラブ
出席者 畔上、宇藤、菊池、小玉、榊、藤田、前
野、八尾、山條、山本各委員

協議事項

1. 主査並に幹事互選の件 (下記の通り決定)
主査 松久保敬三氏
幹事 榊 弘美氏、山本義樹氏
1. 研究事項の件
木材寸法及び品等規格案作成のこと
尙兩幹事に研究案作成方一任

木材分科會 (第2回)

時 8月23日午後2時20分—4時

所 朝日ビル四階 元本會事務所

出席者 松久保主査、榊、山本兩幹事、宇藤、菊池、小玉、藤田、前野、道田、八尾各委員

協議事項

1. 木材寸法規格 原案検討の上次回までに各意見持ち寄ること
2. 木材品等規格 既成案と農林省案を再検討の上研究案を兩幹事に作成方一任

維持会員入會者氏名 (數字は口數)五十音順

一 本 部 一

(株)安藤組大阪支店(10)、(資)池田組(10)、石倉商店(1)、梅林土木(株)大阪支店(10)、大阪田島應田化工(株)(10)、岡本佐一郎(1)、(株)勝呂組大阪支店(10)、鼎直一商店(1)、川岸窯業商店(1)、河邊滿藏(1)、(株)神崎組(10)、共榮工業(資)(1)、(株)桑名組(1)、コマツ建材社(1)、金剛建材工業(株)(1)、昭和理化學研究所(1)、大建工業(株)(1)、大日本土木(株)大阪支店(3)、太陽スレート(株)(1)、高野工業所(1)、竹林塗裝工業(株)(2)、通信建設工業(株)大阪支店(10)、土屋孜(1)、東加謙三建築事務所(10)、東洋リノリューム(株)(2)、日建興業(株)(1)、日新工業(株)大阪支店(10)、日本石綿煙突豐橋工場(1)、廣瀬文太郎(1)、(株)船越工務店(1)、(名)水野組大阪支店(5)、湯淺金物(株)(1)、報國工業(株)(1)

一 京 都 支 部 一

龜村藤三郎(10)、川崎庭園創作所(3)、小瀧電氣商會(10)、小山玉之助(10)、(株)末松工務店(10)、(株)泰山製陶所(3)、刀根塗裝店(10)、中立實建設工業(株)(5)、(株)長瀬組(10)、日本管工業(株)(5)、(資)ミラノ工務店(10)、三星電氣工事(有)(10)、水野組(10)、(株)村田組(10)、北部左官工事(株)(10)、(有)室矢鐵工所(5)

一 廣 島 支 部 一

(株)魚住組(15)、大久保土木建築(株)(5)、大之木組(15)、(株)大林組広島支店(10)、大林興業社(1)、(株)鹿島組広島支店(10)、(有)共立組(10)、近畿電氣工事(株)吳營業所(3)、(有)吳合同製函所(1)、吳水道暖房(株)(3)、(株)清水組広島支店(10)、(株)錢高組広島出張所(10)、惣前組(15)、大華工業所(3)、太平商事(株)(1)、(株)竹中工務店広島支店(10)、通信建設工業(株)広島出張所(10)、(株)戸田組広島支店(10)、(株)富島組吳出張所(10)、(株)西松組中國支店(5)、(株)間組広島支店(10)、廣島工業(株)(20)、藤岡建築事務所(1)、(株)藤田組広島支店(20)、(株)増岡組(20)、(株)松村組吳營業所(10)、株松本組(20)、三木水通衛生工業所(3)、(名)水野組(20)、理事器械(株)吳工事事務所(3)

目 次

會 告	1
日本建築協会の活動	竹 腰 會 長..... 2
就 任 挨 拶	西 川 總 一..... 3
住宅復興とこれからの住生活	藤 田 金 一 郎..... 4
新しい住生活	羽 仁 説 子..... 5-7
正倉院のことども	池 田 谷 久 吉..... 8-9
家族向アパートに就て	武 田 健 三..... 10-13
廣島平和祭・吳	藪 中 一 良..... 14
建築施工技術の振興を計れ	渡 部 圭 吾..... 15-18
相互欄、俳句、會員章	 18-19
サ ロ ン	岩佐信也外2名..... 20-23
英 辭 典	 24-25
建築文献目録	 26
會 務 報 告	 27-29
後 記	 30

編 輯 後 記

いつしか虫の音に親しむ詩的シーズンを迎えた頃漸く追ひナンバー八號を出す事となつた、食料の運配を眞似た譯でないが種々の隘路にブツツかり豫期の成果を擧げる事が出来ず遺憾に耐えない原因は曰く紙材難、經費問題、内容の改革問題等々であるが經費問題が何と言つても最大である、今之等の問題につき協會幹部で根本的に調査研究が進められてゐるから速からず何等かの方法で解決される事と思ふ。我々幹事は與へられた範圍で最善を盡してゐる事を諒せられたい。さあれ本號は藤田金一郎氏のこれからの住生活や羽仁説子女史の新しい住生活等の玉稿を待誌上に華を添へた事を悦ぶ次第である二稿共前號締切直後頂いたので大變遅れて掲載した事をお許し願ひたい。渡部圭吾氏の施工技術の稿は紙面の都合上分割掲載の止むなきに到り筆者にも讀者にも申譯ないがお許しを願ひたい次號で完結の豫定である。本誌の内容組方等も色々意見があり如何にすれば經濟的で然も會員各位の御満足を得られるか毎號幹事會で頭を悩ましてゐる各位の眞摯な御意見を寄せられん事を熱望してゐる。今回は取敢ず項目を擧げて御意見を徴する事とした、次號からは口繪も復活掲載したいと計畫中である、サロンは相當人氣を呼んでゐる事と思ふが各方面からのいろいろの御投稿を待望してゐる、又各支部や地方からローカルの記事も是非寄せて頂きたいものである(幹事長記)

建 築 と 社 會

第 28 輯 第 6. 7. 8 號
毎月 1 回發行 定價 1 部 金 10 圓
昭和 22 年 9 月 20 日 印刷
昭和 22 年 9 月 25 日 發行

編輯發行人 戸 川 弘

發 行 所 社 團 日 本 建 築 協 會
法 人

大阪市北區中之島3の3朝日ビル
電話土佐堀(44) 1836・3631番
電話福島(45) 2862・2867番
振替口座大阪39975番

印 刷 人 山 口 忠 司

印 刷 所 株 式 會 社 大 洋 社
大阪市西區江戸堀上通2の52
電話土佐堀(44) 717番

●第二八集 第六・七・八号 掲載広告一覽（掲載順）

朝日組

平野組

内外土木建材社

朝日スレート

八木工務店

鼎直一商店

久保商店

竹林塗装工業

美素工業所

日新建設工業

愛高大理石

湯浅金物

理想建築

建築材料館

橘工業

富島建設